

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 助教	氏名 津田 良樹	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『帝国後海外神社跡地の 景観変容—稲宮康人 写真展図録』	共著	2012年12月			
海外神社跡地から見た 景観の持続と変容	共著	2014年 3月	(非文字資料研究センタ ー)		
海外神社とは？ 史料 と写真が語るもの	共著	2015年 3月	(神奈川大学常民文化研 究所非文字資料研究セン ター)		
論文					

対馬市峰町木坂の集落と民家について	単著	2011年 3月	(第)		245-256頁
対馬鰐浦にみる集落と家屋の持続と変容	単著	2011年 3月	年報 非文字資料研究(第7)		231-243頁
民家？一柳田の民家・中国の民居	単著	2012年 2月	歴史と民俗(28)		167-182頁
台湾神社から台湾神宮へ	単著	2012年 3月	年報 非文字資料研究(神奈川県常民文化研究所非文字資料研究センター)(第8)		1-29頁
奥能登島崎家住宅について	単著	2012年 4月	すずる物語(67)		25-33頁
『帝国後海外神社跡地の景観』について	単著	2013年 7月	非文字(30)		
六角橋仲見世通り商店街一土地に刻まれた歴史と地上に展開した営みの記憶一	単著	2013年 7月	RAKU(神奈川県工科大学建築学科デザインコース)(9)		
台湾の神社跡地調査からみた共同研究の今後の展望	単著	2013年 7月	非文字資料研究(27)		4-7頁
台湾における海外神社跡地調査	単著	2014年 1月	非文字(31)		23-25頁
海外神社跡地から見た景観の持続と変容	単著	2014年 3月	年報(10)		85-100頁
公開研究会・公開研究会「海外神社とは？史料と写真がかたるもの」について	単著	2014年 7月	非文字(32)		14-17頁
旧朝鮮北部(現・朝鮮民主主義人民共和国)の神社跡地を訪ねて(査読付)	共著	2015年 3月	年報(11)		
その他					

民家？－柳田の民家・中国の民居		2010年11月			
古建築の細部意匠からみた建築年代	単著	2011年 3月	科研成果報告書『中国江南山間地域の民俗文化とその変容－浙江省江山市廿八都鎮と龍游県三門源』所収		177-186頁
集落と民家	単著	2011年 3月	科研成果報告書『中国江南山間地域の民俗文化とその変容－浙江省江山市廿八都鎮と龍游県三門源』		237-260頁
日本建築の空間特性		2011年 9月			
台湾神社から台湾神宮へ	単独	2012年12月	2012年度 第2回公開研究会(横浜)		
大正15年の神奈川県中郡における農家の実態とその後の変遷	共著	2013年 8月	日本建築学会学術講演集		295-296頁
台湾神宮の消長と地下神殿	単独	2014年 3月	非文字資料研究センター公開研究会(横浜)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
	個人研究 アジアの民家・集落の調査研究				
	個人研究 民俗建築学研究				
	個人研究 近世民家史研究				
1972年～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員				
1983年 3月～現在に至る	建築史学会(国内学会)会員				
1985年 7月～2013年 3月	日本生活文化史学会(国内学会)会員				
1990年～現在に至る	日本常民文化研究所プロジェクト奥能登調査研究会〔現在に至る〕				
1991年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)関東支部歴史・意匠研究委員会委員				
1994年 4月～現在に至る	大和市建造物総合調査会 会長				
1996年～現在に至る	日本常民文化研究所プロジェクト山城国大山崎の調査・研究会(現在に至る)				
1999年 4月～現在に至る	鳩山町史編さん 専門委員				
2001年 4月～現在に至る	日本民俗建築学会(国内学会)会員				

2009年 4月～現在に至る	神奈川大学常民文化研究所 所員
2009年 4月～現在に至る	神奈川大学常民文化研究所非文字資料センター 研究員
2011年 4月～現在に至る	平塚市開発審査会 委員
2011年 4月～2012年 3月	機関内共同研究 (2011年度国際交流 (学術研究) 事業)2,000,000円 サンパウロ大学日本日本文化研究所との技術協力および共同研究の基盤形成 (研究分担者)
2011年 4月～2014年 3月	機関内共同研究 (非文字資料研究センター)海外神社跡地から見た景観の持続と変容 (研究代表者)
2012年 4月～2013年 3月	日本建築学会(国内学会)論文査読委員
2013年 4月～2014年 3月	日本建築学会(国内学会)論文査読
2013年 4月～2014年 3月	科学研究費補助金 (日本学術振興会)8,000,000円 「史学A」日本常民文化研究所デジタル資料群データベースー常民文化研究のための地方文書のデータベース化ー (研究分担者)
2014年 4月～現在に至る	機関内共同研究 (非文字)海外神社跡地その後 (研究分担者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 荏本 孝久	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果		2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：建築都市防災1) 2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果では、「学びがいきなり、達成感を感じた」、「講義法および教材活用法に優れている」および「教員の教育熱意を強く感じた」と回答した学生の割合は約40%であった。
2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果		2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：建築の振動解析) 2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果では、回答数が少ないが「学びがいきなり、達成感を感じた」と感じた学生が、約70%程度であった。「講義法および教材活用法に優れている」あるいは「教員の教育熱意を強く感じた」と回答した学生の割合はやや低く後者は約30%強であった。
2008年度後期・学生による授業評価アンケート結果		2009年 2月 ～現在に至る	(授業科目：基礎構造の設計及び演習) 2008年度後期・学生による授業評価アンケート結果では、回答数が少ないが「学びがいきなり、達成感を感じた」と感じた学生が、約50%程度であった。「講義法および教材活用法に優れている」あるいは「教員の教育熱意を強く感じた」と回答した学生の割合は低く前者は約30%、後者は約10%であった。
2 作成した教科書、教材			
なし			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果の活用		2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：建築都市防災1) 2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果では、「学びがいきなり、達成感を感じた」あるいは「講義法および教材活用法に優れている」と感じた学生が、約40%程度であったことから、講義内容や講義方法の改善を検討するのを感じた。また、「教員の教育熱意を強く感じた」と回答した学生の割合も約40%ということで、講義の要点を理解できるような工夫を考える必要があると考えている。今後の授業の内容・教材などの改善を計る。

2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 9月 ～現在に至る	(授業科目：建築の振動解析) 2008年度前期・学生による授業評価アンケート結果では、回答数が少ないが「学びがいきなり、達成感を感じた」と感じた学生が、約70%程度であったことから、講義の主題と内容は理解されたものと考えられる。「講義法および教材活用法に優れている」あるいは「教員の教育熱意を強く感じた」と回答した学生の割合はやや低く後者は約30%強であった。講義の要点をより深く理解できるよう工夫を考える必要があると考えている。今後の授業の内容・教材などの改善を計る。
2008年度後期・学生による授業評価アンケート結果の活用	2009年 2月 ～現在に至る	(授業科目：基礎構造の設計及び演習) 2008年度後期・学生による授業評価アンケート結果では、回答数が少ないが「学びがいきなり、達成感を感じた」と感じた学生が、約50%程度であったことから、講義の主題と内容はほぼ理解されたものと考えられる。「講義法および教材活用法に優れている」あるいは「教員の教育熱意を強く感じた」と回答した学生の割合は低く前者は約30%、後者は約10%であった。講義の要点を理解できるようなテキストと説明を工夫を考える必要があると考えている。今後の授業の内容・教材などの改善を計る。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
5 その他		
博士論文審査委員 (副査)	2002年 2月 ～現在に至る	東京都立大学大学院都市科学研究科における博士論文審査の副査を務めた。
工学部自己点検・評価実施委員会委員	2004年 4月 ～現在に至る	
全学自己点検・評価委員会委員	2005年 4月 ～現在に至る	
上級教育士資格取得	2007年 4月 1日 ～現在に至る	
授業評価及び学生生活実態調査作業部会委員	2008年 4月 ～現在に至る	
博士論文審査委員 (副査)	2008年 8月 ～現在に至る	
博士論文審査委員 (副査)	2009年 2月 ～現在に至る	
博士論文審査委員 (副査)	2012年 2月 ～現在に至る	吉本直美氏の博士 (人間科学) の審査 (副査) 担当
II 研究活動		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
大いなる神奈川の地盤 ーその生立ちとまちづ くりー	共著	2010年 9月	(技報堂出版)	地盤工学会関東支部神奈川県グ ループ編集代表：荻本孝久	
神奈川県地盤	単著	2011年10月	(地盤工学会関東支部「 関東の地盤」編集委員会)		
論文					
地域防災活動支援を目的 とした防災カルテに 関する基礎的研究	共著	2010年 6月	地域安全学会梗概集 No. 26	栗山 利男, 荻本 孝久, 山本 俊 雄, 露木 延夫	
学術フロンティア研究 プロジェクト・災害リ スク軽減を目的とした ソフト・ハード融合型 リスクマネジメントシ ステムの構築に関する 研究(2005～2009)・研 究成果報告書	単著	2010年 6月			
G I Sによる空間解析 を用いた外水氾濫時の 避難所の選定に関する 研究	共著	2010年 6月	地域安全学会梗概集 No. 26	寺園直人, 天国邦博, 山本俊雄 , 荻本孝久	
Analysis of 10 years Restoration Process After a Big Disaster, Story of 1995 Hanshin-Awaji Earthquake, Kobe, Japan	共著	2010年 7月	9th US National and 10th Canadian Conference on Earthquake Engineering CD-ROM	T. Enomoto T., Yamamoto, K. Amakuni and M. Navarro	

Geospatial-Geotechnical Database of Boring and Dense Microtremors Data for Kanagawa Prefecture, Japan.	共著	2010年 7月	9th US National and 10th Canadian Conference on Earthquake Engineering CD-ROM	M. Rahimian, T. Ochiai, T. Ishii, M. Navarro, T. Yamamoto and T. Enomoto	
Vs30 Structure of Granada town (southern Spain) from Ambient Noise Array Observations	共著	2010年 8月	14th European Conference of Earthquake Engineering CD-ROM	M. Navarro, A. García-Jerez, F. Vidal, J.M. Azañon, M. Feriche and T. Enomoto	
Preparation of Seismic Disaster Hazard Maps due to Future Scenario Type Big Earthquakes	共著	2010年 9月	2010ISSREM CD-ROM	T. Enomoto, T. Yamamoto, M. Hashimoto, T. Ochiai, T. Kuriyama and Manuel Navarro	
地域防災活動支援を目的とした防災カルテの作成	共著	2010年 9月	日本建築学会大会(北陸)構造2	栗山利男, 荻本孝久, 山本俊雄	833-834頁
横浜市における高密度微動観測結果のGIS表示に関する研究	共著	2010年 9月	日本建築学会大会(北陸)構造2	荻本孝久, 山本俊雄, 露木延夫, 上野直洋	771-772頁
横浜市旭区における高密度微動観測に基づく地盤震動特性の検討ー丘陵地における特徴ー	共著	2010年 9月	日本建築学会大会(北陸)構造2	上野直洋, 山本俊雄, 荻本孝久	769-770頁
マイクロゾーニングにおける微動活用法の検討-その2 地形・地質条件からのアプローチ-	共著	2010年11月	地域安全学会梗概集 No. 27	山本俊雄, 松田磐余, 上野直洋, 栗山利男, 荻本孝久	
マイクロゾーニングにおける微動活用法の検討-その1 横浜市を対象とした高密度観測-	共著	2010年11月	地域安全学会梗概集 No. 27	上野直洋, 栗山利男, 山本俊雄, 荻本孝久, 松田磐余	

地震観測記録による免震・非免震構造建築物の地震応答特性の比較	共著	2010年11月	第13回日本地震工学シンポジウム論文集(つくば) CD-ROM	荻本孝久, 二宮正行, 宮本泰志, 山本俊雄	
「横浜市民の視点で地震防災を考える」講演会とワークショップの報告	共著	2010年12月	土木学会地震工学委員会		
表層地盤の加速度増幅率Gsに与える工学的基礎の傾斜の影響の整理・実績報告書	共著	2011年 3月	平成22年度建築基準整備促進事業, 鹿島建設株式会社		
近年の気候変動・地震発生危険の実態-おもに地震災害の視点から-	単著	2011年 3月	日本建築学会・地球環境と防災のデザイン指針小委員会報告書		
平塚市における地域の防災まちづくりに関するアンケート調査-アンケートの内容と分析結果の概要-	共著	2011年 5月	地域安全学会梗概集 No. 28	荻本孝久, 添田睦子, 篠原憲一, 山本俊雄, 渡部英樹	39-42頁
都市部での土砂災害を対象とした住民組織, 行政, 大学, 土木技術者が連携した取り組み-クロスロードゲーム 土砂災害都市部編の試行-	共著	2011年 5月	地域安全学会梗概集 No. 28	磯打千雅子, 柳原純夫, 加賀正之, 荻本孝久	23-24頁
防災意識向上を目的とする防災カルテの作成と活用方法に関する研究-神奈川県平塚市を例として-	共著	2011年 5月	地域安全学会梗概集 No. 28	渡部英樹, 山本俊雄, 荻本孝久	47-48頁
高密度微動観測による地盤の卓越周期と未固結層厚の関係	共著	2011年 5月	地域安全学会梗概集 No. 28	栗山利男, 上野直洋, 松田磐余, 山本俊雄, 荻本孝久	1-4頁

Comparison of Seismic Response Characteristics Between Non Base-isolated and Base-isolated Building	共著	2011年 7月	Eurodyn2011, 8th International Conference on Structural Dynamics CD-ROM	T. Enomoto, M. Ninomiya, M. Navarro	
神奈川県建物の被害	共著	2011年 7月	日本建築学会・2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報		
地盤情報データと常時微動観測結果を活用した地盤構造の推定に関する研究－地盤構造が複雑な地点での常時微動観測の適用－	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）構造2	落合 努, 栗山 利男, 荻本 孝久, 山本 俊雄	
地震観測記録に基づく有効入力動の評価(その1 神奈川大学における耐震・免震構造の比較)	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）	伊藤 真二, 犬伏 徹志, 山下 忠道, 二宮 正行, 荻本 孝久, 宮本 裕司	
常時微動測定による在来木造住宅の周期特性と耐震性に関する研究	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）構造2	寺園直人, 荻本孝久, 山本俊雄	
横浜市の高密度微動観測結果による地盤震動特性に関する研究-その2 地形形成史から見た未固結層厚と卓越周期の関係-	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）構造2	上野直洋, 栗山利男, 山本俊雄, 荻本孝久	
横浜市の高密度微動観測結果による地盤震動特性に関する研究-その1 H/V スペクトルに基づく卓越周期-	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）	栗山利男, 上野直洋, 山本俊雄, 荻本孝久	

神奈川県1号館の動的挙動における動的相互作用の効果に関する研究	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）構造2	宮本泰志，二宮正行，山本俊雄，荻本孝久	
起振機実験による神奈川県1号館の振動特性に関する研究—その1 実験および実験結果の概要—	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）構造2	荻本孝久，山本俊雄，二宮正行，宮本泰志，中村尚弘，伊藤真二	
近年の気候変動、地震発生危険の実態—地震災害の視点から—	単著	2011年 8月	日本建築学会・地球環境と防災のフロンティア（2）—地球環境・防災の総合的デザイン指針に向けて—		
「大いなる神奈川の地盤～その生い立ちと街づくり～」の出版と関連活動	共著	2012年 2月	地盤工学会誌 60-2	石井弘泰、吉野広司、三枝弘幸、荻本孝久	
平成23年度建築基準整備促進事業 10.地震力の入力と応答に関する基準の合理化に関する検討調査報告書	共著	2012年 3月	平成23年度建築基準整備促進事業，鹿島建設株式会社		
神奈川県地盤および地盤のモデル化について	単著	2012年 5月	地盤工学会「関東の地盤」ワークショップ		
GIS空間分析機能を活用した広域地震被害情報の分析評価に関する研究—2011年東日本大震災の津波災害における建物被害について—	共著	2012年 6月	地域安全学会春季研究発表会概要集	天国邦博，寺園直人，山本俊雄，荻本孝久	33-36頁
地震力の入力と応答に関する基準の合理化に関する検討：平成23年度報告	共著	2012年 6月	ビルディングレター	元木健太郎、渡辺哲史、加藤研一、荻本孝久、長谷川豊、藤波健剛	

微動H/Vスペクトル比による表層地盤震動特性の評価に関する研究—卓越周期の推定による地盤増幅率の検討—	共著	2012年 6月	地域安全学会春季研究発表会概要集	荻本孝久, 栗山利男, 落合努, 上野直洋, 山本俊雄	37-40頁
Geologa de la ciudad de Lorca (Murcia, Espania). Base para evaluar el riesgo smico; Geology of Lorca town (Murcia, Spain). Basis for assessing seismic hazard	共著	2012年 7月	Proc. of 7ahpgg(7a Asamblea Hispano Portuguesa de Geodesia y Geofisica)	Francisco J. Alcalá, Manuel Navarro, Antonio Garcíá-Jerez, Francisco Vidal, Cristina Creus, Takahisa Enomoto	
Influencia de la estructura superficial del terreno en la distribucion de los danos observados en el terremoto de Lorca de 2011	共著	2012年 7月	Proc. of 7ahpgg(7a Asamblea Hispano Portuguesa de Geodesia y Geofisica)	M. Navarro, A. Garcíá-Jerez, F.J. Alcalá, F. Vidal, T. Enomoto, G. Alguacil	
Mapa preliminar de periodos predominantes del suelo en Puerto Principe (Haiti) a partir de medidas de ruido ambiental	共著	2012年 7月	Proc. of 7ahpgg(7a Asamblea Hispano Portuguesa de Geodesia y Geofisica CD-ROM	M. Navarro, T. Enomoto, M.B. Benito, D. Belizaire, D. Navarro, A. Garcíá-Jerez, H. Dorfeuile	
常時微動計測による表層地盤の振動特性評価に関する研究・その2 実測による評価方法の検証	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演会(東海)梗概集 構造2	長谷川豊, 荻本孝久, 仲林 健, 藤波健剛, 境 茂樹, 小山 信	163-164頁

常時微動計測による表層地盤の振動特性評価に関する研究・その1 ・研究の概要	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演会 (東海) 梗概集 構造2	荻本孝久, 長谷川豊, 藤波健剛, 栗山利男, 阿部秋男, 飯場正 紀	161-162頁
常時微動計測による表層地盤の振動特性評価に関する研究・その3 ・結果の考察	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演会 (東海) 梗概集 構造2	藤波健剛, 荻本孝久, 井川 望, 長谷川豊, 落合 努, 飯場正紀	165-166頁
横浜市の強震観測点 (kg09t)における地盤 構造と地震動特性に関 する研究	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演会 (東海) 梗概集 構造2	平澤和裕, 荻本 孝久, 山本 俊 雄	81-82頁
横須賀市における高密度 微動観測に基づく地 盤特性の評価に関する 研究	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演会 (東海) 梗概集 構造2	山本俊雄, 荻本孝久	155-156頁
Analysis of site effects, building response and damage distribution observed due the 2011 Lorca, Spain, Earthquake.	共著	2012年10月	Proc. of 15WCEE, Paper No.1558	M. Navarro, J.A. García-Jerez, F.J. Alcalá, F. Vidal, C. Aranda and T. Enomoto	
Basic Analysis on Building Damages by Tsunami due to The 2011 Great East Japan Earthquake Disaster Using GIS	共著	2012年10月	Proc. of 15WCEE, Paper No.1875	Kunihiro Amakuni, Naoto Terazono, Toshio Yamamoto and Takahisa Enomoto	
Investigation on Practical Use of H/V Spectral Ratio for Microzoning Considering the History of Landform	共著	2012年10月	Proc. of 15WCEE, Paper No.1355	T. Kuriyama, N. Ueno, T. Yamamoto, T. Enomoto, I. Matsuda and M. Navarro	

Local Governments' Preparedness State for Chemical Related Disasters Prior to Great East Japan Earthquake and Tsunami on March 11, 2011.	共著	2012年10月	Proc. of 15WCEE, Paper No. 3813	F. Mahichi, M. Rahimian, H. Sugihara and T. Enomoto	
Seismic Response Analysis of Base Isolated RC Building Considering Dynamical Interaction Between Soil and Structure	共著	2012年10月	Proc. of 15WCEE, Paper No. 3471	T. Enomoto, T. Yamamoto, M. Ninomiya, Y. Miyamoto and M. Navarro	
2011年東北地方太平洋沖地震の液状化調査結果を踏まえた発生箇所 の分析	共著	2012年11月	地域安全学会秋季研究発表会概要集	山本俊雄, 荻本孝久, 松田磐余	45-46頁
常時微動測定に基づく 在来木造建物の振動特性に関する研究	共著	2012年11月	地域安全学会秋季研究発表会概要集	荻本孝久, 山本俊雄, 箕輪拓実	
神奈川県における地震 防災カルテの作成に関する研究	共著	2012年11月	地域安全学会秋季研究発表会概要集	渡部英樹, 山本俊雄, 荻本孝久	63-66頁
その他					
学術フロンティア研究プロジェクト・災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究・2009年度研究成果報告書		2010年 6月	(横浜市)		

神奈川大学・学術フロンティア研究・災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究（2005～2009年度）：研究成果の総括；学術フロンティア研究成果報告会		2010年 6月	(横浜市)		
神奈川大学・学術フロンティア研究・災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究：研究領域1；学術フロンティア研究成果報告会		2010年 6月	(横浜市)		
神奈川大学・学術フロンティア研究・災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントシステムの構築に関する研究：研究領域6；学術フロンティア研究成果報告会		2010年 6月	(横浜市)		
地震の災害に備える一地域との協力ー；都市防災研究所・親子防災キャンプ		2010年 8月	(大磯町)		

地震災害とは何かー神奈川県揺れ易さマップから探るー；かながわコミュニティカレッジ災害・救援ボランティアコーディネータ養成講座		2010年 8月	(横浜市)		
地域防災活動を支援する地震防災カルテの活用；第4回平塚市地域防災活動者研修		2010年10月	(平塚市)		
大都市を襲う巨大地震のインパクトー地震災害を防ぐ科学ー；工学入門・高校生向け公開講座		2010年12月	(横浜市)		
神奈川県の地盤；地盤工学会関東支部「関東の地盤・データベース付き」講習会		2010年12月	(東京都)		
地震災害とは何かー神奈川県揺れ易さマップから探るー；「かながわコミュニティカレッジ」災害救援ボランティアコーディネータ養成講座Step2・中級編		2011年 2月	(横浜市)		
地震と被害の概要から見た東日本大震災；2011年3月11日東北地方太平洋沖地震（Mw9.0）緊急講演会ー被災地の現場からー，横浜キャンパス		2011年 5月	(横浜市)		

地震と被害の概要から見た東日本大震災；2011年3月11日東北地方太平洋沖地震（Mw9.0）緊急講演会－被災地の現場から－，湘南ひらつかキャンパス		2011年 5月	(平塚市)		
東日本大震災の現地レポート-専門家から見た津波被害の大きさは・・・-；緑区防災講演会		2011年 5月	(横浜市)		
2011東北地方太平洋沖地震（Mw9.0）のメカニズムと被害；「一日神奈川大学生」開講講座		2011年 6月	(横浜市)		
地震と被害の概要から見た東日本大震災の脅威；大井町防災講演会		2011年 6月	(神奈川県大井町)		
平塚市の地盤；第3回平塚市地域防災懇談会		2011年 6月	(平塚市)		
震災をどう捉えるか・東日本大震災－内陸活断層型と海溝型地震－；」，平成23年度第1回平塚市地域防災活動者育成研修		2011年 6月	(平塚市)		
地震と防災・減災－今、望まれる地域の防災活動－；横須賀市全市町内会長のつどい		2011年 7月	(横須賀市)		

東日本大震災の教訓と防災対策－海溝型巨大地震と内陸活断層型大地震－，さいたま市地域防災計画改訂に係る庁内検討委員会		2011年 7月	(さいたま市)		
近年の気候変動、地震発生危険の実態－地震災害の視点から－；2011年度日本建築学会・地球環境部門パネルディスカッション，地球環境と防災のフロンティア（2）－地球環境・防災の総合的デザイン指針に向けて－		2011年 8月	(名古屋市)		
大いなる神奈川の地盤－出版にあたって－；「大いなる神奈川の地盤」出版記念講演会		2011年 9月	(東京都)		
東日本大震災から学ぶ防災（減災）まちづくり；実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座		2011年 9月	(横浜市)		
災害に強い都市づくり；神奈川大学宮陵会・北陸ブロック会議記念講演会		2011年 9月	(福井市)		
地震災害と防災対策－最近の地震災害の特徴として－；日中協会		2011年11月	(川崎市)		
平塚市の地盤と地域特性；第1回平塚市地域防災活動者育成研修（中級）		2011年11月	(平塚市)		

東日本大震災と防災の課題ー地震災害のグローバルな視点からー；神奈川県連続講演会・巨大災害と地域社会		2011年11月	(横浜市)		
自助・共助から考える地域コミュニティの大切さ～地域の防災力を高めよう～；横三ブロック民生委員児童委員協議会		2011年11月	(横須賀市)		
まち歩きによる防災マップの作成と活用；第4回平塚市地域防災活動者育成研修（中級）		2012年 2月	(平塚市)		
大規模災害に備える防災・減災まちづくり；神奈川県土地家屋調査士会公開講座「東日本大震災より学ぶ」		2012年 2月	(横浜市)		
東日本大震災から学ぶ減災行動；横浜市中区防災講演会		2012年 3月	(横浜市)		
事前の備えとして防災・減災の地域活動の大切さ～地域防災・減災まちづくりに向けて～」，ひたちなか市青年会議所		2012年 4月	(ひたちなか市)		
減災（自助・共助）のすすめ；第1回横浜市中区地域別防災講演会（野毛地区センター）		2012年 4月	(横浜市)		

地震災害の予測と防災情報－東日本大震災の教訓・減災社会に向けて－；神奈川大学防災連続講演会Part1		2012年 5月	(横浜市)		
減災（自助・共助）のすすめ；第2回横浜市中区地域別防災講演会（横浜市技能文化会館）		2012年 5月	(横浜市)		
減災（自助・共助）のすすめ；第3回横浜市中区地域別防災講演会（中区役所）		2012年 6月	(横浜市)		
減災（自助・共助）のすすめ；第4回横浜市中区地域別防災講演会（竹之丸地区センター）		2012年 6月	(横浜市)		
地域とともに考える都市防災；横浜市商工会議所第22回産業防災連絡会議		2012年 7月	(横浜市)		
想定されている首都圏直下地震のイメージ；「防災塾・だるま」7周年記念シンポジウム		2012年 7月	(横浜市)		
減災（自助・共助）のすすめ；第5回横浜市中区地域別防災講演会（上台集会所）		2012年 7月	(横浜市)		
減災（自助・共助）のすすめ；第6回横浜市中区地域別防災講演会（本牧地区センター）		2012年 8月	(横浜市)		

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震における平塚市内の震度分布—アンケート震度調査の結果—；第3回平塚市地域防災活動者育成研修（初級）	2012年 9月	(平塚市)		
神奈川県を表層地盤の地盤震動特性：文部科学省地震調査推進本部・強震動予測部会委員会	2013年 1月	(東京都)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
年月	内容			
	個人研究 サイスマミックマイクロゾーニングに関する研究			
	個人研究 地盤と構造物の地震応答特性評価に関する研究			
	個人研究 都市防災に関する研究			
1974年～現在に至る	土木学会(国内学会)会員			
1977年～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員			
1978年～現在に至る	建築研究振興協会 会員			
1985年～現在に至る	地震学会(国内学会)会員			
1988年～現在に至る	地域安全学会(国内学会)会員			
1989年～現在に至る	国際地震工学会 (EERI) (国内学会)会員			
1991年～現在に至る	土木学会(国内学会)第1部門論文審査委員			
1994年～現在に至る	地震工学協会 会員			
1997年 4月～現在に至る	地盤工学会(国内学会)会員			
1999年 3月～現在に至る	東京都地域危険度測定調査委員会 委員			
1999年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)建築物の減衰小委員会委員			
2000年 4月～現在に至る	横浜市・YSK耐震診断評定委員会 委員			
2004年 3月～現在に至る	地盤工学会関東支部神奈川県グループ 幹事			
2005年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金(文部科学省)150,000,000円 「学術フロンティア研究事業」災害リスク軽減を目的としたソフト・ハード融合型リスクマネジメントの構築に関する研究(研究代表者)			
2006年 4月～現在に至る	地盤工学会(国内学会)関東支部神奈川県グループ 幹事			
2006年11月～現在に至る	特定非営利活動法人(内閣府承認)建設教育研究推進機構 理事			
2008年 4月～2011年 3月	地盤工学会関東支部運営委員会 委員			
2008年 4月～2013年 3月	日本建築学会(国内学会)荷重運営委員会委員			

2011年 4月～現在に至る	土木学会(国内学会)地震工学委員会地震防災技術普及小委員会委員
2011年 4月～現在に至る	土木学会地震工学委員会地震防災技術普及小委員会 委員
2011年 4月～現在に至る	地盤工学会(国内学会)全国電子地盤図作成に関する委員会委員
2011年 5月～2012年 3月	神奈川県地震防災対策検証委員会 委員
2012年 4月～現在に至る	土木学会(国内学会)地震工学委員会突発災害時の避難誘導システムの開発に関する小委員会副委員長
2012年 4月～現在に至る	土木学会地震工学委員会・突発災害時における避難誘導システムの開発に関する小委員会 副委員長
2012年 4月～現在に至る	横浜商工会議所産業防災連絡会議 副座長
2012年 4月～現在に至る	神奈川県再生エネルギー利用事業評価委員会 委員
2012年 4月～現在に至る	神奈川県消防安全協議会評議会 委員長
2012年10月～現在に至る	神奈川県被害想定調査検討会 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 岩本 静男	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
大学機械室の見学会の実施		2003年12月 ～現在に至る	(授業科目：環境システム計画Ⅰ・Ⅱ及び演習)設計演習において機械室の設計を行わせるが、本学本館の機械室の見学会を実施し、設計課題の参考資料となるよう配慮した。(平成15年12月～)
卒業研究と卒研輪講の評価について		2004年 1月 8日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】卒業研究と卒研輪講について、2004年度JABEE申請に備えて、2003年度の卒業研究発表会にて全教員が評価を行うことを確認した。また、研究室所属学生については、卒研輪講の成績とは別にJABEE上必要となる評価をA・B・Cの3段階で行うことになっている。採点資料は一括してJABEE担当の岩本静男助教授が保管することになった。記録用のシートはエクセル・ファイルで教育委員から配布される。
卒業研究の中間報告の実施		2004年 7月15日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】卒業研究の中間報告について、当該年度の卒業研究の中間報告について、各研究室に掲示を行い、卒業研究の研究課題と進捗状況を提出することとした。審査結果により、著しく進捗の遅い者について夏休み明けに再提出とする。中間報告の提出がないものについては、指導教員が個別に対応し、例えば退学を視野に入れた進路変更を考えている場合には、退学を思いとどまった際にも対応できるように再提出扱いとするなど、十分に配慮している。
修論優秀賞と学外賞の選考		2007年 2月 1日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】大学院前期課程2年生について梗概集を用いて修了判定を行うが、その折に修論優秀賞を合議の上決定することとした。また、研究内容によって、空衛学会篠原賞を推薦することとした。
卒業研究優秀賞の選考		2007年 2月 1日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】2006年度より卒研評価シートを利用して、卒業研究優秀賞を決定することとした。評価方法は、卒研梗概、発表、質疑について総合的に100点満点で4名の教員により採点を行っており、その平均点の上位者とする。さらに空衛学会の学生賞の推薦者も、大学院進学希望者を優先して合議の上決定することとした。

2 作成した教科書、教材		
Homepageによる講義資料の提供	2001年 5月 1日 ～現在に至る	(授業科目：建築情報処理) 履修学生が情報処理教育用教室にて手軽に閲覧できるように、講義で用いるプリント・演習類をHomepage形式で作成し、研究室内のPCサーバーにより提供した。出席や演習の提出にもHomepageを活用できるよう配慮した。(平成13年5月～平成15年3月)
環境システム計画I・II及び演習の課題建物	2003年 7月17日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】従来配布している課題建築物に、2年次前期の設計製図IIの課題で学生自らが設計した事務所建築を採用する案が寺尾教授から提案された。用途、規模、敷地などこれまでの課題建築物に近いこと、他の科目との連携がはかれること、機械室・ダクトシャフト・パイプシャフトと建築設計との関連を学ぶこと、など利点が多いことから、2004年度より採用することとした。
復習用自習問題の提供	2004年 4月 ～現在に至る	(授業科目：空調設備・建築情報処理) 履修学生が授業後の復習に使えるように、復習のための自習問題をホームページに掲載することとした。(平成16年4月～)
Excelによる実験結果の処理ソフトを提供	2005年10月 ～現在に至る	(授業科目：建築実験、建築環境・設備実験) 温熱環境の実測と評価において、学生が実験後に結果を評価する際に用いる計算プログラムを提供してきたが、入力に手間取って講義時間を超えてしまうことがある。Excelによる処理ソフトを開発して入力の省力化を図った。
空調設備IIにおいて、予習のための自習問題を提供	2006年 4月10日 ～現在に至る	2006年度より、空調設備IIの授業前に予習できるよう、webを通して自習問題を提供し始めた。
温冷感指標計算シートのSI単位化	2006年 5月20日 ～現在に至る	温冷感指標計算シートをSI単位に基づいて作成しなおした。
配布資料のS I 化	2006年 9月 ～現在に至る	(授業科目：環境システム計画I・II及び演習) これまでの資料では慣用単位系であったが、教科書もカタログもS I 単位となってきた。今年度より配布される選定資料、利用programの全てをS I 化することを目標とし、改善を始めた。
建築環境輪講Iにおける技術者倫理の追加	2008年 3月 6日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】2006年度カリより建築環境輪講Iにおいて技術者倫理を扱うことになっている。建築構造コース、建築デザインコースでは建築学会編「建築倫理用教材」を用いて解説して学生にレポートを書かせて提出することとしている。建築環境コースでどのように扱うか審議し、3コース共通に扱うことを趣旨として、同教材を用いて学生にレポートを書かせて提出させることとし、第1回の建築環境輪講Iの授業で紹介・案内することとした。なお、設備一級建築士の「みなし講習」のテキスト作成が進行中であり、その中で技術者倫理が扱われることになっている。2009年度以降はこれも含めて教材を見直すこととした。

COMiSによる多室換気計算	2013年 4月 ～現在に至る	卒業論文における資料として、COMiSを用いて多室に及ぶ換気計算を行う方法を記述し、例題を用いて複雑な風力と温度差による換気量を求める方法を記した資料である。卒研輪講において、テキストファイルによる入力と出力の処理に関する基本的な演習問題として位置づけられる。			
SET*の計算法	2013年 4月 ～現在に至る	PMVと並ぶSET*の計算法について詳細を記述した資料である。卒研輪講では、人体熱モデルとして用いられる65MNモデルやJOSモデルの基礎となる計算法を学ぶ教材として位置づけられている。			
壁体内非定常一次元熱伝導計算	2013年 4月 ～現在に至る	壁体内非定常一次元熱伝導計算の方法を詳細に記述した者であり、本研究室で卒研等に用いる汎用商用ソフトTRNSYSの基礎となる理論を理解することを目的とした資料を作成した。卒研輪講では、汎用ソフトの基礎計算演習として位置づけられる。			
気象庁のアメダスWebデータの自動読み取りVBAの開発	2014年 8月10日 ～現在に至る	気象庁のWebサイトから自動的にAMeDASの気象データを読み取り、csvファイルに保存できるVBAjコードを開発し、卒業研究や建築環境輪講I・IIなどの資料作成に活用している。			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
授業評価アンケートの活用について	2003年 7月17日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】2003年7月7～12日に行われた授業評価アンケートについて、集計結果が得られた後に各教員が内容を確認し、適切な処置をとるよう確認した。なお、アンケート回収後すぐ提出せずに、教員がコピーをとる、スキャナーで読み取る、などの工夫で週結果が出る前に、学生の反応を知ることが出来る。即座に対応できる内容があれば、後期授業から取り組むこととした。			
工学部 平成18年度前期 優秀講義者賞	2006年10月 ～現在に至る				
工学部 平成19年度前期 優秀講義者賞	2007年10月 ～現在に至る				
授業評価アンケートの対象科目の変更と質問項目の検討	2008年 5月14日 ～現在に至る	【環境専門プログラムFD議事録より】2008年度に実施される授業評価アンケートの対象科目の変更と追加の質問項目について審議された。科目変更の必要はなく、特段の質問項目もなく、例年通りとなった。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

著書					
なし					
論文					
異なる暖房方式の快適性能予測手法に関する研究：第1報-CFDによる暖房室内の温熱環境解析と実測実験の比較（査読付）	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会論文集，空気調和・衛生工学会 (162)	蛭田厚大，酒井孝司，加治屋亮一，倉淵隆，岩本静男，小野浩己	1-8頁
換気負荷のある居室での床暖房時や温風暖房時における温熱・気流環境と温熱環境評価および室内投入熱量の空間分布（査読付）	共著	2011年 3月	日本建築学会環境系論文集(日本建築学会) 76(661)	倉淵 隆，清水 裕幸，蛭田 厚大，加治屋 亮一，酒井 孝司，飯野 由香利，小笠原 岳，遠藤 智行，長井 達夫	317-324頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究：浴槽入浴による熱移動に関する被験者実験とシミュレーション（査読付）	共著	2012年 3月	日本建築学会環境系論文集，日本建築学会 77(673)	芹川真緒，前真之，赤嶺嘉彦，佐藤誠，岩本静男，倉淵隆	143-151頁
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究：ルーバーの日射遮蔽効果と年間空調負荷のケーススタディ（査読付）	共著	2012年 6月	日本建築学会環境系論文集・日本建築学会 77(676)	佐藤智之，久保賢太郎，彦根茂，三澤温，趙旺熙，岩本静男，岩田衛	467-474頁
被験者実験による省エネルギーな入浴方法の検討と人体モデルによる入浴時間の予測に関する研究（査読付）	共著	2012年12月	日本建築学会環境系論文集，日本建築学会	芹川真緒，前真之，赤嶺，佐藤智之，岩本静男，倉淵隆	
その他					

住宅内の階段付き吹き抜けが室内温熱環境に与える影響－実大実験建物を用いたコールドドラフトの実態把握と改善対策の検討－	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 G(44)	瀧野達也・深澤たまき・他	
住宅内吹き抜けが室内温熱環境に与える影響 その1 実大実験建物を用いたコールドドラフトの実態把握	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎岩本静男・瀧野達也・深澤たまき・他	341-342頁
住宅内吹き抜けが室内温熱環境に与える影響 その2 実大実験建物を用いたコールドドラフト改善対策	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎瀧野達也・深澤たまき・岩本静男・他	343-344頁
土浦の戸建住宅における小屋裏空間の大きさが室内熱環境に与える影響	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 G(47)	久保賢太郎・深澤たまき・他	
土浦の戸建住宅の室内温熱環境に対する小屋裏空間の影響	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	久保賢太郎・深澤たまき・岩本静男・他	67-68頁
市街地に建つ戸建住宅の通風時室内気流分布の予測精度改善法に関する研究	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)		815-816頁
市街地に建つ戸建住宅の通風気流による冷涼感予測に関する研究	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(50)		
接触熱伝導が温冷感に及ぼす影響に関する被験者実験	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D-2		523-524頁
暖房時の室内壁面における対流熱伝達率の測定（第1報）床暖房時の床面における測定	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(19)		

水まわり空間を中心とした省エネルギーと快適性に関する研究 第1報 研究の目的と概要	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	岩本静男・鎌田元康・他	635-636頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第3報 実験室実験による浴室断熱・浴室暖房の有効性の検証	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)		639-640頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第4報 浴室温熱環境改善による入浴エネルギー消費削減効果の検討	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)		641-642頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第1報) 実住戸における水まわり温熱環境の実態把握と分析	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(61)	鎌田元康、他	
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第2報) 断熱・暖房による浴室温熱環境改善効果の検証実験	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(62)		
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第3報) 浴室温熱環境改善による入浴エネルギー消費削減効果の検討	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(63)		

給湯設備の省エネ基準 (1)CEC/HWとその改定	単著	2010年 9月	空気調和・衛生工学 84(9)		11-15頁
自然対流熱伝達現象の 数値計算における Dynamic LESの有用性	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講 演梗概集 D(2)		625-626頁
通風環境下における対 流熱伝達率及び着衣量 に関する研究(その1) 対流熱伝達率と着衣 量に関する実験的研究	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講 演梗概集 D(2)		303-304頁
通風環境下における対 流熱伝達率及び着衣量 に関する研究(その2) 高速気流に暴露され た人体の対流熱伝達 率及び着衣量に関する 数値シミュレーション	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講 演梗概集 D(2)		305-306頁
長岡市の戸建住宅にお ける玄関前風除室の熱 環境に関する研究	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講 演梗概集 D(2)	深澤たまき・久保賢太郎・岩本 静男・他	71-72頁
長岡市の戸建住宅にお ける玄関前風除室の熱 環境実態とその活用策	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大 会学術講演論文集、G-48 G(48)	深澤たまき・久保賢太郎・他	
住宅における給湯負荷 と省エネルギー	単著	2011年 7月	太陽エネルギー 37(4)		3-8頁
住宅における給湯負荷 と省エネルギー	単著	2011年 7月	太陽エネルギー 37(4)		3-8頁
住宅内吹き抜けが室内 温熱環境に与える影響 (その3) コールドド ラフト対策案の検討	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講 演梗概集 D(2)		337-338頁
住宅内吹き抜けが室内 温熱環境に与える影響 その4 二次エネルギー 消費量と温熱環境	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講 演梗概集 D(2)		339-340頁

水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第10報 入浴時の暖房方式が及ぼす温熱快適感に関する研究	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)		595-596頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第11報 暖房方式・水準が入浴直前までに温熱快適性に及ぼす影響に関する検討	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)		597-598頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第12報 暖房水準・湯温が及ぼす温熱快適感・身体ストレスに関する検討	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)		599-600頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第9報 浴槽入浴による浴槽湯の保有熱損失量と人体への蓄熱量の把握実験	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)		593-594頁
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究 その1 ルーバーの日射遮蔽効果	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)		549-550頁
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究 その2 ルーバーの日射遮蔽効果を考慮した年間空調負荷のケーススタディ	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)		551-552頁

自然通風時における人の快適性についての研究 その1 基礎的被験者実験	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)		295-296頁
住宅内の階段付き吹き抜けが室内温熱環境に与える影響 (第2報) コールドドラフト対策案と二次エネルギー消費量	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 C(52)		1833-1836頁
住宅内の階段付き吹き抜けが室内温熱環境に与える影響 (第3報) コールドドラフト対策案と被験者実験による温冷感	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 C(53)		1837-1840頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第6報) 浴室まわりの温熱環境改善に伴う湯消費・温熱感・身体ストレスの検討	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 C(65)		1885-1888頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第7報) 浴槽入浴による浴槽湯の保有熱損失量と人体吸熱量の把握実験	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 C(66)		1889-1892頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第8報) 入浴時の暖房方式が及ぼす温熱快適感に関する研究	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 C(67)		1893-1896頁

水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第9報) 暖房方式・湯温が温熱快適感と身体ストレスに及ぼす影響に関する検討	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 C(68)		1897-1900頁
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究 ルーバーの日射遮へい効果と年間空調負荷のケーススタディ	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 B(40)		927-930頁
ZEB 化特集 海外のZEB 動向① オーバーリン大学ルイスセンター (Oberlin College Adam Joseph Lewis Center)	単著	2011年11月	建築設備士((一社)建築設備技術者協会) 2011年(11月号)		
ZEB化特集 海外のZEB 動向(1)オーバーリン大学ルイスセンター (Oberlin College Adam Joseph Lewis Center)	単著	2011年11月	建築設備士, (社) 建築設備技術者協会 2011年11月号		
住宅内の階段付き吹き抜けが室内温熱環境に与える影響 (第4報) サーマルマネキンによる温熱快適性予測の検討	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(5)	◎森戸直美、瀧野達也、岩本静男、千葉陽輔	897-900頁
住宅内の階段付き吹き抜けが室内温熱環境に与える影響 (第5報) CFDによる室内気流構造の解析	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(6)	森戸直美、瀧野達也、◎岩本静男、千葉陽輔	901-904頁

水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第20報 人体モデルによる入浴時間の予測と入浴における湯消費の検討	共著	2012年 9月	平成24年9月, 日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	前真之、倉渕隆、 <u>岩本静男</u> 、他	611-612頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第18報 入浴時の暖房方式が及ぼす快適性と省エネルギーに関する研究	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	前真之、倉渕隆、 <u>岩本静男</u> 、他	607-608頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第11報) シャワー入浴における浴室温熱環境改善および節湯型水栓による湯消費削減効果の検証	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(23)	(前真之、倉渕隆、 <u>岩本静男</u> 、他)	89-92頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第12報) 浴室暖房による浴室の快適性向上と人体モデルによる入浴時間予測	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(24)	前真之、倉渕隆、 <u>岩本静男</u> 、他	93-96頁
水まわり空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第13報) 浴室の暖房方式とシャワーが人体に及ぼす影響の予測法に関する研究	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(25)	前真之、倉渕隆、 <u>岩本静男</u> 、他	97-100頁

水回り空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 第19報 65MNモデルとZhangモデルを用いた生理量・心理量の検討	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	◎佐藤智之、前真之、倉淵隆、 岩本静男、他	609-610頁
水回り空間を中心とした省エネルギー性と快適性に関する研究 (第14報) 65MNモデルとZhangモデルを用いた生理量・心理量の予測	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(26)	◎佐藤智之、前真之、倉淵隆、 岩本静男、他	101-104頁
給湯設備における年間消費エネルギーの予測に関する研究 第2報 業務用厨房における給湯スケジュールの計測	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	◎岩本静男、趙旺熙	615-616頁
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究 その3 空調負荷と消費エネルギーの削減効果	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎牧野由佳、彦根茂、三澤温、 趙旺熙、岩本静男、岩田衛	91-92頁
自然通風時における人の快適性についての研究(その2)自然通風による快適な気温域	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎中村剛基、太田尚久、吉村篤彦、 趙旺熙、岩本静男	375-376頁
自然通風時における人の快適性についての研究(その3)自然通風が生理反応に及ぼす影響	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	中村剛基、太田尚久、吉村篤彦、 趙旺熙、岩本静男	377-378頁
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その19) デシカントローターの熱パージによる夏季の除湿性能	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎趙旺熙、小林遼一、川本光一、 河野仁志、加藤信介、大岡龍三、 小金井真、岩本静男	975-976頁

非結露型次世代空調システムに関する研究（その20）潜熱顕熱分離外調機としての加湿性能実験	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎趙旺熙、小林遼一、川本光一、河野仁志、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男	977-978頁
非結露型次世代空調システムに関する研究（その21）潜熱顕熱分離外調機としての冬季加湿性能実験	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(75)	趙旺熙、小林遼一、川本光一、河野仁志、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男	2945-2948頁
非結露型次世代空調システムに関する研究（その22）実機実験によるデシカントローターの熱パージの効果検証	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(76)	趙旺熙、小林遼一、川本光一、河野仁志、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男	2949-2952頁
建築設備技術者協会四国支所	共同	2012年10月	(高松（サンポートホール高松）)		
海外調査報告 韓国・東南アジア諸国におけるZEB調査の概要報告（その1）4. Green Tomorrow	単著	2013年 1月	, 建築設備士((一社)建築設備技術者協会)		
韓国・東南アジアにおけるZEB調査の概要報告 4. Green Tomorrow	共著	2013年 1月	建築設備士(建築設備技術者協会)	坂本真史	
空調方式の違いによる結露リスク評価に関する研究 第1報 事務所ビルにおける室内結露評価	共著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎牧野由佳、趙旺熙、岩本静男、河野仁志、加藤信介	241-242頁
節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究 第1報 吐水力試験によるシャワーヘッドの物理的特性の把握に関する研究	共著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	前真之、井上隆、倉渕隆、岩本静男、他	621-622頁

節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究 第2報 被験者実験によるシャワーヘッドの最適流量と満足度の把握と要因分析	共著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	前真之、井上隆、倉淵隆、 <u>岩本静男</u> 、他	623-624頁
節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究 第3報 実使用を想定した被験者実験による節湯型シャワーヘッドおよび温熱環境改善による湯消費削減効果の検証	共著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	前真之、井上隆、倉淵隆、 <u>岩本静男</u> 、他	625-626頁
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その23) デシカントローターの熱パージによる冬季の加湿性能	共著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎趙旺熙、川本光一、河野仁志、加藤信介、大岡龍三、小金井真、 <u>岩本静男</u> 、他	925-926頁
業務用ビルを対象とする液冷空調システムの開発 (第7報) ヒートポンプ熱源を利用するデシカント空調システムにおけるCOPの検討	共著	2013年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 G(33)	松縄堅、加藤信介、河野仁志、趙旺熙、 <u>岩本静男</u> 、小金井真、他	41-44頁
業務用ビルを対象とする液冷空調システムの開発 (第8報) 結露リスク評価手法の構築	共著	2013年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 G(34)	◎牧野由佳、趙旺熙、 <u>岩本静男</u> 、松縄堅、加藤信介、河野仁志	45-48頁
業務用ビルを対象とする液冷空調システムの開発 (第1報) 液冷空調システム導入の必要性、および開発課題	共著	2013年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 G(27)	◎松縄堅、加藤信介、近藤武士、森川泰成、関根賢太郎、河野仁志、 <u>岩本静男</u> 、小金井真、他	17-20頁
温熱快適性を考慮した戸建住宅における入浴消費エネルギー	共著	2013年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 B(19)	◎ <u>岩本静男</u> 、趙旺熙、佐藤智之、前真之、倉淵隆	73-76頁

節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究(第1報)シャワーヘッドの吐水力計測および最適流量に関する被験者実験	共著	2013年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 B(5)	井上隆、前真之、岩本静男、倉淵隆、大塚雅之、佐藤誠、他	17-20頁
節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究(第2報)被験者実験によるシャワーヘッドの最適流量と使用感に関する分析	共著	2013年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 B(6)	井上隆、前真之、岩本静男、倉淵隆、大塚雅之、佐藤誠、他	21-24頁
●特集 建築物の改正省エネルギー基準と設計への応用 2.改正省エネルギー基準のポイント 3)一次エネルギー消費量 ④給湯設備の計算の導き方	単著	2014年 8月	月刊建築技術(株式会社建築技術) 2014年(8月号)		
●特集 建築物の改正省エネルギー基準と設計への応用 2.改正省エネルギー基準のポイント 3)一次エネルギー消費量 ④給湯設備の計算の導き方	単著	2014年 8月	月刊建築技術(株式会社建築技術) 2014年(8月号)		
二重屋根と屋上緑化による空調負荷・ヒートアイランド抑制効果の検討	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 G(27)	◎東恵輔、趙旺熙、岩本静男	197-200頁
台所用各種節湯水栓における被験者属性の違いが湯水使用に及ぼす影響	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(6)	井上隆、前真之、岩本静男、倉淵隆、大塚雅之、桑沢保夫、他	45-48頁
台所用各種節湯水栓の節湯効果と性能評価に関する研究	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(7)	井上隆、前真之、岩本静男、倉淵隆、大塚雅之、桑沢保夫、他	49-52頁

台所用各種節湯水栓の節湯効果と性能評価に関する研究 第1報 簡易実験による最適流量の把握とその決定要因の検討	共著	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	井上隆、前真之、 <u>岩本静男</u> 、倉 淵隆、大塚雅之、他	631-632頁
台所用各種節湯水栓の節湯効果と性能評価に関する研究 第2報 食器洗浄実験による節湯効果と最適流量との関係	共著	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	井上隆、前真之、 <u>岩本静男</u> 、倉 淵隆、大塚雅之、他	633-634頁
屋上緑化が空調熱負荷に及ぼす影響 その3 二重屋根と屋上緑化によるヒートアイランド抑制効果	共著	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎東恵輔、趙旺熙、 <u>岩本静男</u>	19-20頁
業務用ビルを対象とする液冷空調システムの開発 (第16報) ヒートポンプ熱源を利用するデシカント空調システムの実測評価	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 0(62)	◎河野仁志、寺西翔平、牧野由佳、趙旺熙、 <u>岩本静男</u> 、松縄堅、加藤信介、他	141-144頁
業務用ビルを対象とする液冷空調システムの開発 (第18報) 建物内および空調機内における結露リスク評価	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 I(64)	◎寺西翔平、牧野由佳、趙旺熙、 <u>岩本静男</u> 、松縄堅、加藤信介、河野仁志	149-152頁
空調方式の違いによる結露リスク評価に関する研究 第2報 事務所ビルにおける空調機内結露評価	共著	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(2)	◎寺西翔平、牧野由佳、趙旺熙、 <u>岩本静男</u> 、加藤信介、河野仁志	251-252頁

節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究 第4報 節湯型シャワーヘッドの設計条件が使用感に及ぼす影響と最適流量時の全吐水力の把握	共著	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 D(1)	井上隆、前真之、岩本静男、倉 淵隆、大塚雅之、佐藤誠、他	635-636頁
節湯型水栓の物理的特性と使用感に関する研究 (第3報) 節湯型シャワーヘッドの更なる流量削減の可能性に関する検討	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集 A(5)	井上隆、前真之、岩本静男、倉 淵隆、大塚雅之、佐藤誠、他	41-44頁
海外調査報告 欧州ZEB調査報告～Eawag Forum Chriesbach	共著	2015年 3月	建築設備士((一社)建築設備技術者協会)	片山有史、島潔	
海外調査報告 欧州ZEB調査報告～WWFオランダ本部	共著	2015年 3月	建築設備士((一社)建築設備技術者協会)	坂本真史、塩谷正樹	

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	個人研究 建築内外の気流分布を数値解析により予測する方法に関する研究
	個人研究 給湯システムに関する研究
	国内共同研究 住戸セントラル方式の給湯システムに関する研究
1983年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)会員
1993年 4月～現在に至る	住宅・建築省エネルギー機構 建築省エネルギー推進委員会設備部会給湯WG 委員
1994年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)省エネルギー委員会委員
2004年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)省エネルギー委員会住宅小委員会委員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 建築設備における地球環境負荷削減に関する研究
2006年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会 地球環境委員会 委員長
2006年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会 省エネルギー委員会 委員
2006年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会 省エネルギー委員会 住宅小委員会 委員
2007年 4月～現在に至る	建築・環境 省エネルギー機構 省エネルギー推進委員会 給湯部会 部会長

2007年 4月～2011年 3月	文科省 科学研究費補助金 基盤研究(B) 非定常気流・温熱環境解析手法を用いたバーチャルハウスシミュレータの開発 分担
2008年 4月～2012年 3月	日本建築学会(国内学会)地球温暖化対策会議委員
2009年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)地球環境委員会委員
2011年 4月～現在に至る	科学研究費補助金(科学研究費補助金)1,200,000円 「基盤研究B」非定常CFDと日射・人体解析モデルの融合による不均一温熱環境シミュレータの開発(研究分担者)
2011年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金(科学研究費補助金)4,200,000円 「基盤研究C」多様な使用実態に対応可能な住戸セントラル給湯システム効率評価手法の確立(研究代表者)
2012年 4月～2014年 3月	日本建築学会(国内学会)カーボンニュートラル化行動計画推進WG
2012年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)標準化委員会幹事
2012年 4月～2015年 3月	空気調和・衛生工学会(国内学会)地球環境委員会環境配慮建築アクションプラン検討小委員会主査
2012年12月～2015年 3月	企業からの受託研究(株式会社朝日工業社)建物内設備結露リスク評価法の開発(研究代表者)
2014年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)低炭素社会推進会議技術分野WG主査
2014年10月～2015年 3月	企業からの受託研究(株式会社プリンシパルホーム)200,000円 小屋裏の換気量と結露についての分析(研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部建築学科	教授	吉松 京子	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
思考レベルでの授業参加	1997年 4月 ～現在に至る	(授業科目：建築計画B, 都市計画) 与えられた知識ではなく自分の言葉で思考する能力を養うことをねらいとして、授業内容に関連する質問に対し自分の考えを書かせるようにした。1つの授業で3～4回程度、A5版の用紙を配布し1回につき10分程度で書いてもらい、その都度回収した(回収用紙は出席チェックも兼ねている)。また、提出された内容については次の授業で取り上げ、フィードバックを試みている。	
ミニレポートの提出	2000年 4月 ～現在に至る	(授業科目：建築計画B, 都市計画) 学生の理解を深めるために、その日の授業内容をミニレポートにまとめて提出させた。一つの授業で3～4回程度、A5版の用紙を配布し一回につき10分程度で書いてもらい、その都度回収した。「思考レベルでの授業参加」が主に自分の言葉で思考する能力を養うことをねらいとしているのに対し、授業内容の積極的理解を目的としている。授業前半でレポート実施を告げることにより、学生の授業に臨む態度にあきらかな変化が見られた。(平成12年4月1日～)	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2003年 4月 ～現在に至る	2002年度以降、6回に渡り行われた授業評価アンケート評価結果は随時授業内容の完全な役立てている。例えば「質問・意見に配慮した」が他項目に比べやや評価が低かったことを受け、ミニレポートへの還元を積極的に図るなどインタラクティブであるよう改善した。	
2 作成した教科書、教材			
「建築計画B」の教科書作成	2012年 9月 ～現在に至る	2013年度より、「建築計画B」において、自著「建築空間計画」を授業のテキストとして使用している。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2008年度前期授業評価アンケート結果他	2008年 9月 ～現在に至る	担当科目「都市計画」の「学生による授業評価アンケート」において「興味・関心が持てた」「話し方が明確でひきつけた」「熱意を感じた」等が高く評価され、総合満足度は学部・学科の平均値(3.4点)を上回る4.4点(5点満点)であった。また、2002年から行われている「学生による授業評価アンケート」においても、すべての科目で平均値以上の総合満足度を得ている。	

4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
ビデオ会議による遠隔地講評への参加		1999年 7月13日 ～現在に至る		東京工芸大学の設計製図課題を対象とした、インターネット上のビデオ会議による遠隔地講評会に参加した。デジタルツールを用いた設計教育方法の実験的試みといえる。成果は「ビデオ会議による遠隔地講評を設計製図教育に応用する試みーインターネット上のビデオ会議における可能性の検討ー」（真鍋信太郎他、第22回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、平成11年12月）にて報告された。	
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
建築・都市計画のための調査・分析方法〔改訂版〕(査読付)	共著	2012年 5月	(井上書院)		
建築空間計画	共著	2012年 9月	(彰国社)	積田洋、福井通、赤城徹也、金子友美、鈴木弘樹、山家京子	
論文					
ご近所マップによる組・班単位を対象とした情報共有の試みーコミュニティ支援を意図したワークショップの実践と課題ー(査読付)	共著	2011年12月	住宅系研究報告会論文集 (日本建築学会) 6	山家京子、佐々木一晋、加藤史 絵奈、亀田昌宏、高橋永	83-90頁
自治会間の連携を意図した防災共有ボードゲームの作成(査読付)	共著	2012年 2月	日本建築学会技術報告集 Vol. 18(No. 38)	齋藤千夏、山家京子、佐々木一 晋、飯澤清典	303-308頁
その他					

口頭発表「住民の意向を組み込んだデザインプロセスの研究 鎌倉市由比が浜通を事例として」	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸） F-1	石坂佳美, <u>山家京子</u> , 佐々木一晋	221-222頁
口頭発表「郊外住宅地における道路境界域の空間構成に関する研究」	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸） F-1	脇田理人, <u>山家京子</u> , 佐々木一晋	631-632頁
口頭発表「鎌倉市大町地区におけるコミュニティ支援を意図したワークショップの実践と課題 その2 回覧板ネットワークを用いたご近所情報共有の試み」	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸） F-1	加藤史絵奈, 亀田昌宏, <u>山家京子</u> , 佐々木一晋	231-232頁
作品：横浜市脱温暖化モデル住宅推進事業応募案：エコロジカルニッチ「生態的適所の形成」	共著	2010年10月		<u>山家京子</u> , 岩本静男, 室伏次郎, 横溝貢	
口頭発表：リアルタイム動画・テキスト共有サービスを活用したワークショップ支援ツールの実践的考察	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東） F-1	佐々木一晋, 脇田理人, <u>山家京子</u>	1011-1012頁
自然・都市・情報空間と連結する境界	単独	2011年11月	(東京)		
口頭発表「郊外住宅地における住民意識と生活関連施設利用行動—神奈川県南部郊外住宅地を対象とした調査研究—」	共著	2013年 3月	日本建築学会大会関東支部研究報告集	<u>山家京子</u> , 佐々木一晋, 本間健太郎	405-408頁

口頭発表「郊外住宅地における生活関連施設利用行動パタンの抽出ー神奈川県南部の郊外住宅地を対象とした調査研究ー」	共著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）F-1	山家京子, 本間健太郎	525-526頁
まちづくりと都市空間ーヨーロッパ・東アジアの都市を事例にー	単独	2013年11月	(波止場会館（横浜）)		
都市空間の固有性とまちづくりーパリ・東アジアの都市を中心としてー	単独	2014年 3月	横浜建築祭(関内ホール（横浜）)		
Facebook「かまくらさん」に投稿された画像の特徴, 地域SNSによる地域資源抽出の試み その1	共同	2014年 9月	日本建築学会大会（近畿）（神戸大学）	吉永健人, 鄭一止	
地域資源抽出プロセスに関する研究 その1. ホームページを対象とした事例調査	共同	2014年 9月	日本建築学会大会（近畿）（神戸大学）	鄭一止	
横浜市六角橋商店街のまちなみ意匠に関する調査研究 その3. 六角橋商店街らしい建築的要素とまちなみデザインガイド	共同	2014年 9月	日本建築学会大会（近畿）（神戸大学）	佐藤拓磨, 鄭一止, 杉江知樹	
横浜市六角橋商店街のまちなみ意匠に関する調査研究 その2. まちなみを構成する建築的要素の抽出	共同	2014年 9月	日本建築学会大会（近畿）（神戸大学）	杉江知樹, 佐藤拓磨, 鄭一止	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1985年 4月～現在に至る		日本建築学会(国内学会)会員			

1991年 4月～現在に至る	日本都市計画学会(国内学会)会員
2001年 3月～2012年 3月	文部科学省科学技術動向研究センター 専門調査員
2004年 9月～2010年 9月	横浜市大規模小売店舗立地審議会 委員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 情報化が都市・建築に及ぼす影響について
2005年 6月～現在に至る	神奈川県国土利用計画審議会 委員
2007年 4月～現在に至る	個人研究 人口縮小時代における都市ビジョンの構築
2008年 4月～現在に至る	個人研究 コミュニティ活性化を意図したワークショップ支援ツールの作成
2008年 4月～現在に至る	個人研究 郊外住宅地の持続可能性に関する調査研究
2008年 9月～現在に至る	旧軍港市国有財産処理審議会(財務省) 委員
2008年10月～現在に至る	鎌倉市建築等紛争調停委員会 委員
2010年 4月～現在に至る	横須賀市都市計画審議会 委員
2010年 4月～2012年 3月	横須賀市都市計画審議会常務委員会 委員長
2010年 4月～2014年 3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)780,000円 「基盤研究(c)」人口縮小時代における持続可能な郊外住宅地の実現を意図した調査研究(研究代表者)
2011年 4月～現在に至る	横浜市地域まちづくり推進委員会 委員
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 550,000円 「基盤研究(B)」分権改革時代におけるヨーロッパ諸国の都市政策と政府間関係に関する比較研究(研究分担者)
2011年 8月～2011年 8月	旧市立横須賀高等学校用地活用審査委員会 委員長
2011年 8月～2013年 3月	横浜市バリアフリー検討協議会いずみ中央駅・立場駅周辺地区部会 部会長
2013年 2月～現在に至る	台東区景観審議会 委員
2013年 5月～現在に至る	環境未来都市推進委員会(内閣府) 委員
2013年10月～2014年 9月	その他の補助金・助成金(一般財団法人河川情報センター)巨大津波危険非伝承の観光都市における人々の避難意思喚起のための効果的対策の研究-古都鎌倉市を事例として-(研究分担者)
2013年10月～現在に至る	機関内共同研究(神奈川大学アジア研究センター)東アジア4国際都市の脆弱地区の調査、ならびに環境社会再生への方法の探求(研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 岩田 衛	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
教科書の要点のパワーポイント		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：建築の構造)教科書として使用している「地球環境建築のすすめ」の要点を60枚のパワーポイントにまとめ、最後の講義の際に、復習のために用いている。		
教科書の要点のパワーポイント		2008年10月 1日 ～現在に至る	(授業科目：地球環境建築)教科書として使用している「地球環境建築のすすめ」の要点を60枚のパワーポイントにまとめ、最後の講義の際に、復習のために用いている。		
研究成果の要点のパワーポイント		2009年 4月 1日 ～現在に至る	研究成果の概要をまとめ、時代の流れの中で研究があることを学生に解説する。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
建築物の損傷制御設計 Damage Control-Based Design of Buildings	共著	2014年11月	中国建築工業出版社、 218p、2014年11月		
論文					

Guideline for reusable members of building steel structures (査読付)	共著	2010年 5月			
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、二酸化炭素排出量の推定 (査読付)	共著	2010年 6月	日本建築学会環境系論文集、第652号、pp. 535-542		
統合ファサードにおける斜行配置ルーバーに関する実大火災実験 (査読付)	共著	2010年 6月	日本建築学会技術報告集、第32号、pp. 547-552		
鋼モルタル板あるいは鋼材を拘束材に用いた座屈拘束ブレースの比較実験 (査読付)	共著	2010年 6月	日本建築学会技術報告集、第33号、pp. 517-521		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究、クリアランスの圧縮耐力への影響と圧縮耐力に応じた座屈モード数の評価 (査読付)	共著	2010年 7月	日本建築学会構造系論文集、第653号、pp. 1361-1368		
Sustainable and quake-resistant facade for existing buildings (査読付)	共著	2010年 9月	International Association for Bridge and Structural Engineering, Venice, pp. 426-427 (CD8)		
Comparison tests of buckling-restrained braces using steel mortal planks or steel alone (査読付)	共著	2010年10月	Pacific Structural Steel Conference 2010, Beijing, China, pp1482-1490.		

建築鋼構造のリユースシステムに関する研究、サステナブルビル構造の試施工によるリユースの検証（査読付）	共著	2010年10月	日本建築学会環境系論文集、第656号、pp. 923-928		
統合ファサードにおける水平ルーバーに関する実大火災実験（査読付）	共著	2010年10月	日本建築学会技術報告集、第34号、pp. 1003-1008		
統合ファサードにおけるトリガーシステムの提案（査読付）	共著	2010年11月	日本建築学会構造系論文集、第657号、pp. 2073-2078		
座屈拘束ブレースの脆性破壊に関する実験的研究 － 溶接を有する芯材の実験（査読付）	共著	2011年 3月	日本建築学会構造系論文集、第661号、pp. 667-674		
Buckling-restrained braces using steel mortar planks; Effects of the clearance between core plate and restraining element on compressive strength（査読付）	共著	2011年 6月	4th International Conference on Advances in Experimental Structural Engineering、JRC, ELSA, Ispra, (CD11)		
統合ファサードにおけるバウンドルーバーの研究（査読付）	共著	2011年 6月	日本建築学会技術報告集、第36号、pp. 607-610		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究 － 座屈モード数の評価および圧縮引張耐力比と細長比の関係（査読付）	共著	2011年 6月	日本建築学会構造系論文集、第664号、pp. 1153-1160		

座屈拘束ブレースの脆性破壊に関する実験的研究 － 芯材の溶接形状および実験温度による影響 (査読付)	共著	2011年 8月	日本建築学会構造系論文集、第666号、pp.1507-1514		
Inelastic behaviour of buckling-restrained braces using steel mortar planks (査読付)	共著	2011年 9月	International Association for Bridge and Structural Engineering, London, pp.392 (CD8)		
Seismic retrofit with a new type of buckling restrained brace (査読付)	共著	2011年 9月	International Association for Bridge and Structural Engineering, London, pp.58 (CD8)		
A Damage-controlled structure using buckling-restrained knee braces (査読付)	共著	2011年11月	Structural Engineering International, Vol.21, No.4, pp.462-470		
建築鋼構造のリユースシステムに関する研究 － 既存ストックにおけるリユース材の等級 (査読付)	共著	2011年11月	日本建築学会環境系論文集、第669号、pp.1025-1031		

Experimental study on brittle fracture of buckling-restrained braces; Influences of core plate welding specifications and experimental temperatures (査読付)	共著	2012年 1月	STESSA 2012, Santiago, Chile、pp.577-583		
サステナブルビル構造に適合するファサードパネル構法の提案 (査読付)	共著	2012年 6月	日本建築学会技術報告集、第39号、pp.585-588		
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究、ルーバーの日射遮蔽効果と年間空調負荷のケーススタディ (査読付)	共著	2012年 6月	日本建築学会環境系論文集、第676号、pp.467-474		
耐火被覆を有する建築鋼構造部材のリユースに関する施工実験 (査読付)	共著	2012年 6月	日本建築学会技術報告集、第39号、pp.795-799		
Cyclic Behaviour of Buckling-restrained Braces using Steel Mortar Planks; Buckling Mode Number and Strength Ratio (査読付)	共著	2012年 9月	15th World Conference on Earthquake Engineering, Lisbon, Portugal、Paper (10 pages)、2012年 9月		

鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究－座屈モード数および圧縮引張耐力比と摩擦力の評価－(査読付)	共著	2012年11月	日本建築学会構造系論文集、第681号、pp. 1763-1771		
座屈拘束ブレースを用いた既存RC造建築物の耐震補強における接合部のせん断耐力の実験的研究(査読付)	共著	2012年12月	日本建築学会構造系論文集、第682号、pp. 1925-1931		
RC骨組と座屈拘束ブレースとの接合部に関する実験的研究(査読付)	共著	2013年 2月	日本建築学会技術報告集、第41号、pp. 137-140		
Bending test of the composite steel-timber beam (査読付)	共著	2013年 6月	Applied Mechanics and Materials, Vols. 351-352, pp415-421		
Evaluation of buckling mode number and compression-to-tension strength ratio of buckling-restrained brace (査読付)	共著	2013年 6月	7th International Structural Engineering and Construction Conference, Honolulu, Hawaii		
座屈拘束ブレースを制振部材として用いる損傷制御RC構造の実験的研究(査読付)	共著	2013年 6月	日本建築学会構造系論文集、第688号、pp. 1123-1129		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究：芯材細長比の違いによる強軸座屈モード(査読付)	共著	2013年 6月	鋼構造論文集、第20巻、第78号、pp. 15-21		

座屈拘束ブレース付きRC構造におけるスタッド接合部の繰返しせん断実験（査読付）	共著	2013年 7月	コンクリート工学年次論文集、Vol. 35、No. 2、pp. 1201-1206		
Compressive-to tensile strength ratio of buckling-restrained braces using steel-and-mortar planks（査読付）	共著	2013年 9月	The thirteenth east Asia-pacific conference on structural engineering and construction, Sapporo, Japan		
座屈拘束ブレースの脆性破壊に関する実験的研究：溶接接合された十字断面芯材の力学的性能（査読付）	共著	2013年 9月	日本建築学会構造系論文集、第691号、pp. 1613-1620		
鋼と木質材料の複合構造システムの構法成立の可能性（査読付）	共著	2013年 9月	日本建築学会環境系論文集、第691号、pp. 725-731		
鋼木質複合梁部材の曲げ実験（査読付）	共著	2013年10月	日本建築学会技術報告集、第43号、pp. 967-970		
リユースを想定した鋼構造部材の性能評価：材質の推定例（査読付）	共著	2014年 2月	日本建築学会技術報告集、第44号、pp. 45-48		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究：摩擦力分布を考慮した圧縮引張耐力比の算定手法とその評価（査読付）	共著	2014年 3月	日本建築学会構造工学論文集、Vol. 60B、pp. 307-315、2014年 3月		

座屈拘束ブレースおよびスタッド付きガセットプレートを用いた損傷制御RC構造の設計法 (査読付)	共著	2014年 4月	(日本建築学会構造系論文 集、第698号、 pp. 533-540、2014年 4月)		
座屈拘束方杖ブレースを有する鋼木質複合構造の設計法の提案 (査読付)	共著	2014年 6月	日本建築学会構造系論文 集、第700号、 pp. 847-855、2014年 6月		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの構面外機構安定性 (査読付)	共著	2014年 6月	日本建築学会技術報告集 、第45号、pp. 569-574、 2014年 6月		
Buckling-mode number and compressive-to-tensile strength ratio of buckling-restrained braces (査読付)	共著	2014年 7月	Tenth U.S. National Conference on Earthquake Engineering, Anchorage, Alaska、 2014年 7月		
累積塑性歪エネルギー率の大きな座屈拘束ブレースの研究 (査読付)	共著	2014年 7月	日本建築学会構造系論文 集、第701号、 pp. 1015-1023、2014年 7 月		
Building system for a composite steel-timber structure (査読付)	共著	2014年 9月	Euro Steel 2014, 7th European Conference on Steel and Composite Structures, Naples, Italy, pp527-528		
Building system for a composite steel-timber structure (査読付)	共著	2014年 9月	Steel Construction, Volume 7, pp. 183-187、 2014年 9月		

Trial design of the composite steel-timber structure (査読付)	共著	2014年 9月	37th IABSE Symposium, Madrid, Spain, 2014年 9月		
疲労性能の高い座屈拘束ブレースの研究 (査読付)	共著	2015年 2月	日本建築学会技術報告集、第47号、pp.137-140、2015年 2月		
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究：鋼製ずれ止め位置が力学性能に及ぼす影響及び座屈変形の評価 (査読付)	共著	2015年 3月	日本建築学会構造工学論文集、Vol.61B、pp.、2015年 3月		
その他					
建築寿命と構造	単著	2011年 1月	日本建築学会、総合論文誌、第9号、pp.39-42		
地球環境に配慮したサステナブル建築構造	単著	2011年 4月	クリーンエネルギー、Vol.20, No.4, pp.69-76		
連動型地震に備えて、長時間地震動に対応できる座屈拘束ブレース	単著	2012年 9月	鉄構技術、Vol.25, No.292, pp.45		

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1969年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
1977年～現在に至る	新製品の鋼管立体トラスシステム (NSトラス) 開発
1979年～現在に至る	新宿NSビル大屋根構造 (3層立体トラス、スパン61m) の構造設計
1982年～現在に至る	小瀬スポーツ公園体育館大屋根構造 (方形立体トラス、スパン63m) の構造設計
1984年～現在に至る	名古屋総合体育館大屋根構造 (パラレルラメラドーム、直径100m) の構造設計
1985年～現在に至る	ジャカルタ空港ハンガー構造 (平板立体トラス、間口300m、最大スパン105m) の構造設計
1985年～現在に至る	新製品の角形鋼管Yトラス (Yトラス) 開発
1986年～現在に至る	大連TVタワー構造 (立体トラスタワー、高さ192m) の構造設計
1987年～現在に至る	横浜アリーナ大屋根構造 (プラットトラス、スパン108m) の構造設計

1988年 4月～現在に至る	IABSE (International Association for Bridge and Structural Engineering) 会員
1989年～現在に至る	新製品の大規模人工地盤 (スペースLSYトラス) 開発
1990年～現在に至る	新製品の免震構造システム (アイソレーター+スチールダンパー) 開発
1990年 4月～現在に至る	日本建築構造技術者協会 会員
1991年～現在に至る	常滑体育館構造 (フィーレンデルトラス壁構造+斜交立体トラス、スパン50×101m) の構造設計
1991年～現在に至る	新製品の被害レベル制御構造 (制振構造システム) 開発
1992年～現在に至る	新製品のNSトラスCADシステム開発
1993年～現在に至る	深圳地王商業中心ビル構造 (68F、高さ384m) の構造設計
1994年～現在に至る	新製品のテンション構造 (NSテンション) 開発
1995年～現在に至る	芦屋浜高層ハウジング構造 (地震被害調査、補修、脆性破壊原因分析) の構造設計
1996年～現在に至る	東京電力火力発電所構造 (制御構造システム適用) の構造設計
1996年 5月～現在に至る	日本鋼構造協会 会員
1997年～現在に至る	サンキョウ渋谷ビル構造 (斜め柱構造ビル、14F、高さ62m) の構造設計
1998年～現在に至る	郡山駅西口再開発ビル構造 (23F、高さ132m) の構造設計
1999年 4月～現在に至る	個人研究 建築構造のライフサイクルにおける環境負荷削減
1999年 4月～現在に至る	個人研究 建築鋼構造システム
1999年 4月～現在に至る	個人研究 損傷制御構造
2009年 6月～2011年 5月	日本建築学会(国内学会) 日本建築学会 監事
2010年 4月～現在に至る	日本免震構造協会(国内学会) 会員
2011年 4月～2014年 3月	科学研究費補助金 16,100,000円 「科学研究費補助金(基盤研究(B))」地球環境に配慮した鋼と木質材料の複合構造に関する研究(研究代表者)
2012年 6月～現在に至る	日本免震構造協会(国内学会) 審議員
2012年 6月～2014年 6月	日本建築学会(国内学会) 副会長
2014年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会) 気候変動による災害防止特別委員会委員長
2014年 9月～現在に至る	その他の補助金・助成金(国土交通省)機能維持性能に優れた座屈拘束ブレース付中高層建築物の技術開発(研究代表者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部建築学科	教授	島崎 和司	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
webを利用した教材提示と意見集約	2001年 4月 1日 ～現在に至る	授業の教材を電子化し授業でパソコンを用いてビジュアルな授業を行うと共に、電子化した教材をweb上で公開し、復習できるようにした。また授業への質問や感想を書きこむweb掲示板を授業毎に用意し、リアルタイムでの授業改善手法を試行した。	
学部・大学院を通じた「大型実験装置」を利用した初級構造技術者養成教育プログラムとその実践	2001年 4月 1日 ～現在に至る	実際の建物に適用される技術としての損傷低減型構造や低環境負荷型構造の構築をめざした統一的なテーマの基に、「大型実験装置」を用いた実験的研究を中心とした教育プログラムを、プロトタイプ構造物の設計から結果の評価にいたるフローを進めて、教育効果を高めるための工夫をし、構造技術者の実務と関連させた初級構造技術者養成教育プログラムとして作り上げ、実践している。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2007年 9月 1日 ～現在に至る	鉄筋コンクリート構造の授業において、2006年度後期の学生による授業評価アンケートで、授業の進め方や理解度に対する評価が低い。これは、建築構造の力学的挙動を理解するに当たって、基本ができていないことと、それを学生が自覚できていないことに起因していると思われる。2007年度は2006年度に比べ、さらに基礎に重きを置き、2008年度は毎週の学習目標をはっきりさせて、予習につながるような宿題等を与え、また、授業の最後で、要点をまとめて復習に役立てるように改善した。	
2 作成した教科書、教材			
鉄筋コンクリート構造の設計 学びやすい構造設計	2002年 1月 ～現在に至る	日本建築学会関東支部	
建築構造力学I	2003年11月 ～現在に至る	学芸出版	
建築構造設計	2004年 2月 ～現在に至る	文部科学省検定高等学校工業科教科書、実教出版	
基礎シリーズ 最新建築構造設計入門 ー力学から設計までー	2004年 4月 ～現在に至る	実教出版	

建築構造力学II	2005年11月 ～現在に至る	学芸出版			
鉄筋コンクリート構造講義資料集	2012年 8月 1日 ～現在に至る	教科書のアウトライン			
建築構造設計、文部科学省検定高等学校工業科教科書	2014年 1月25日 ～現在に至る				
鉄筋コンクリート構造の設計 学びやすい構造設計	2014年 5月 ～現在に至る				
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
工学部優秀講義賞	2007年 3月 ～現在に至る				
2008年度学生による授業評価アンケート結果	2008年 9月 1日 ～現在に至る	鉄筋コンクリートの構造設計および演習の科目において、2008年度学生による授業評価アンケート結果で、すべての項目で学校平均を上まり、特に、レベルは高いが関心を持って意欲的に取り組み、質問に配慮して、理解が進み、総合的にみて満足との評価が高い。			
研究授業	2008年11月19日 ～現在に至る	骨組みの力学IIおよび演習の科目において、建築学科教員により授業の聴講、評価が行われ、授業時間の組立、進め方、PPTの資料等に対して好意的な評価をいただいた。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
人事院公務員採用 I 種試験（理工 I）試験専門委員	2007年 7月 ～2012年 6月				
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
(H26新課程) 建築構造設計 (文部科学省検定工業高等学校教科書)	共著	2014年 1月	(実教出版)	和田章、島崎和司、他9名	
建築構造設計指導資料	共著	2014年 2月	(実教出版)	和田章、島崎和司、他9名	

鉄筋コンクリート構造の設計 - 学びやすい構造設計 -	共著	2014年 5月	(日本建築学会関東支部)	塩原等、 <u>島崎和司</u> 、他	
論文					
曲げヒンジ部で破壊するRC造柱の地震後の残存軸耐力 (査読付)	単著	2010年10月	日本建築学会構造系論文集 (No. 656)		1867-1872頁
デボンド異形鉄筋を用いたRC造ブレース型ダンパーの研究 (査読付)	共著	2011年 2月	日本建築学会技術報告集 (No. 35)	<u>島崎和司</u> 、二宮誠司、五十嵐泉	157-160頁
神奈川大学 23 号館の地震・台風時の挙動	共著	2011年12月	工学研究所所報, 神奈川大学 (第34 号)	大熊 武司、 <u>島崎 和司</u> 、安井 八紀	25-33頁
粘弾性壁型制震ダンパーのRC根巻き型構造取り付け部の検討 スタッド接合形式の耐力の検討 (査読付)	共著	2013年 9月	日本建築学会構造系論文集 (第691号)	<u>島崎和司</u> , 戸澤正美, 宮崎裕一, 濱智貴	1641-1648頁
RC根巻き型構造のスタッドの耐力と剛性の検討 粘弾性壁型制震ダンパーのRC根巻き型構造取り付け部の検討 その2 (査読付)	共著	2014年 7月	日本建築学会構造系論文集 (第701号)	<u>島崎 和司</u> , 戸澤 正美, 宮崎 裕一, 濱 智貴	pp. 1047-1054頁
K 形ブレースを壁梁に外付け補強した既存建物構面の原位置試験 耐震補強された既存RC建物の性能の検証 (査読付)	共著	2015年 1月	日本建築学会構造系論文集(日本建築学会) 80(707)	© <u>島崎和司</u> , 小野泰伸	117-126頁
その他					

EXPERIMENTAL STUDY ON REINFORCED CONCRETE DAMPERS USING DE-BONDED DEFORMED BARS (査読付)	単著	2010年 9月	Proc. 14th European Conference on Earthquake Engineering		
RC部材の1質点系振動実験によるひずみ速度効果による減衰の評価 試験装置の試作	共同	2010年 9月	日本建築学会	島崎和司、五十嵐泉	
デボンドX型配筋を用いた損傷低減型耐震壁の実験的研究 その5 スラブ幅の違いによる相違について	共同	2010年 9月	日本建築学会	綿貫裕基、五十嵐泉、島崎和司	
デボンド異形鉄筋を用いたブレース型制振部材に関する研究 その4 フレーム実験による性能検証	共同	2010年 9月	日本建築学会	五十嵐泉、島崎和司	
低降伏点鋼を用いたRC間柱型制振ダンパーの構造性能に関する実験	共同	2010年 9月	日本建築学会	中澤春生、島崎和司、戸澤正美、宮崎裕一、淵本正樹、大久保香織	
せん断破壊するRC造柱の地震後の残存軸耐力に関する研究 せん断破壊曲面縮小率式の検証	共同	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	小野泰伸、島崎和司	
デボンドX型配筋を用いた損傷低減型耐震壁の実験的研究 その7 解析との比較による耐荷機構の検討	共同	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	綿貫裕基、五十嵐泉、島崎和司	
免震構造物の 2011/3/11東北地方太平洋地震の実測結果とシミュレーション	単独	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集		

高性能粘弾性体を用いた壁型制震ダンパーのRC取付部要素実験 その1 実験概要	共同	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	小嶋一輝、 <u>島崎和司</u> 、中澤春生、戸澤正美、濱智貴、宮崎裕一	
高性能粘弾性体を用いた壁型制震ダンパーのRC取付部要素実験 その2 変形状・ひずみ分布・耐力	共同	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	濱智貴、 <u>島崎和司</u> 、中澤春生、戸澤正美、小嶋一輝、宮崎裕一	
Evaluation of Seismic Torsional Response of Base Isolated Buildings	単著	2012年 9月	15th World Conference on Earthquake Engineering		Paper ID 165頁
Experimental Study on 3-Dimensional Reinforced Concrete Core Wall for Super High Rise Buildings	共著	2012年 9月	15th World Conference on Earthquake Engineering	T. MATSUURA, T. MATSUMOTO, <u>K. Shimazaki</u>	
コア壁—フラットプレート接合部に関する実験的研究 その4 支持条件とスラブ形状の違いによる影響	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	<u>島崎和司</u> 、綿貫 裕基、五十嵐 泉	
コア壁—フラットプレート接合部に関する実験的研究 その5 復元力特性の検討	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	綿貫裕基、五十嵐 泉、 <u>島崎 和司</u>	
デボンド異形鉄筋を用いたブレース型制振部材に関する研究 その5 RC造梁・柱・ブレース接合部の検証実験	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	佐藤宏貴、五十嵐 泉、 <u>島崎 和司</u>	
デボンド異形鉄筋を用いたブレース型制振部材に関する研究 その6 RC造K型ブレース実験	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	五十嵐泉、 <u>島崎 和司</u>	

鉄骨枠付K型ブレースで耐震補強されたRC建物の補強効果確認原位置試験 その1 建物耐震補強概要	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	山谷 博愛、小野 泰伸、 <u>島崎 和司</u>	
骨枠付K型ブレースで耐震補強されたRC建物の補強効果確認原位置試験 その2 実験結果	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	小野泰伸、 <u>島崎 和司</u>	
骨枠付K型ブレースで耐震補強されたRC建物の補強効果確認原位置試験 その3 AEセンサを用いた損傷モニタリング	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	柳瀬 高仁、村田 光、佐藤 宏貴、 <u>島崎 和司</u>	
高性能粘弾性体を用いた壁型制震ダンパーのRC取付部要素実験 その3 スタッドの特性評価	共同	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集	濱 智貴、宮崎 裕一、戸澤 正美、 <u>島崎 和司</u>	
長大免震建物の揺れ振動 — 2011 東北地方太平洋沖地震での挙動 —	単著	2012年12月	ベース設計資料、建設工業調査会 (No. 155)		pp28-32頁
RC部材の1質点系振動実験による損傷の評価	単独	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集		
アンボンド PC 圧着梁のせん断耐力確認実験 その2 実験結果概要	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	山中健次、江頭寛、藤井睦、樋渡健、佐藤宏貴、 <u>島崎和司</u>	
アンボンドPC圧着梁のせん断耐力確認実験 その1 実験計画概要	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	江頭寛、藤井睦、樋渡健、岡安隆史、五十嵐泉、 <u>島崎和司</u>	

コア壁—フラットプレート接合部に関する実験的研究 その6 支持条件とスラブ形状の違いによる影響 (前後面2辺固定)	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	佐藤宏貴、五十嵐泉、 <u>島崎和司</u>	
デボンド異形鉄筋を用いたブレース型制振部材に関する研究	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	五十嵐泉、 <u>島崎和司</u>	
制震ダンパーを集中配置した構造システムの検討 その1 多質点モデルによる検討	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	大島実穂、木本幸一郎、伊藤隆之、上野敏範、松平有生、 <u>島崎和司</u>	
制震ダンパーを集中配置した構造システムの検討 その2 2質点モデルのパラメトリックスタディ	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	木本幸一郎、大島実穂、伊藤隆之、 <u>島崎和司</u> 、上野敏範、松平有生	
鉄骨枠付K型ブレースで耐震補強されたRC建物の補強効果確認原位試験 その4 柱部材切り出し試験体による耐力確認実験結果	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	小野泰伸、 <u>島崎和司</u>	
高性能粘弾性体を用いた壁型制震ダンパーのRC取付部要素実験 その4 複数スタッドの特性評価	共同	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集	宮崎裕一、濱智貴、戸澤正美、 <u>島崎和司</u>	
「鉄筋コンクリート構造の設計」改定講習会—学びやすい構造設計—		2014年 6月	(横浜、前橋)		
RC梁のせん断補強筋とクラック幅に関する研究 純せん断試験による検討	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	丸山裕生、 <u>島崎和司</u> 、五十嵐泉	

アンボンドPC圧着梁のせん断性能に関する解析的研究	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	山中健次、 <u>島崎和司</u>	
免震建物の位相差入力に関する解析的研究 上下動を含んだ応答の検討	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	菊池 健太郎、 <u>島崎 和司</u>	
制震ダンパーを集中配置した構造システムの検討 その3 オイルダンパーを適用した2質点モデルのパラメトリックスタディ	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	木本幸一郎、大島 実穂、伊藤隆之、上野 敏範、松平 有生、 <u>島崎 和司</u>	
制震ダンパーを集中配置した構造システムの検討 その4 2質点パラメトリックスタディ デバイスごとの挙動の比較	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	松平有生、大島実穂、伊藤隆之、 <u>島崎和司</u> 、木本幸一郎、上野敏範	
制震ダンパーを集中配置した構造システムの検討 その5 オイルダンパーを適用した多質点モデルによる検討	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	大島実穂、木本幸一郎、伊藤隆之、上野敏範、松平有生、 <u>島崎和司</u>	
鉄骨枠付K型ブレースで耐震補強されたRC建物の補強効果確認原位置試験 その5 柱、梁部材切り出し試験体による耐力確認実験結果	共同	2014年 9月	日本建築学会大会梗概集 (近畿)	佐藤宏貴、五十嵐泉、 <u>島崎 和司</u>	
鉄骨枠付K型ブレースで耐震補強されたRC建物の補強効果確認原位置試験 その6 補強ブレース取り付け接合部の耐力確認実験	共同	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (近畿)	<u>島崎和司</u> 、五十嵐泉、小野泰伸	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
1977年 4月～現在に至る	(社) 日本建築学会(国内学会)会員
1989年 5月～現在に至る	アメリカコンクリート工学協会(国際学会)会員
1990年 3月～現在に至る	日本コンクリート工学協会(国内学会)会員
2000年～現在に至る	個人研究 免震建築物の長期変形と耐震性能に関する研究
2000年～現在に至る	個人研究 RC構造物の地震時や常時の安全性能
2000年～現在に至る	競争的資金等の外部資金による研究(学術フロンティア、科研費)損傷制御型鉄筋コンクリート構造の研究
2000年 5月～現在に至る	日本建築学会PC耐震設計小委員会 委員
2001年 4月～現在に至る	日本地震工学会(国内学会)会員
2001年 4月～2011年 3月	横浜市公共建築物耐震工法検討委員会 委員
2002年 3月～現在に至る	建築研究開発コンソーシアム(国内学会)会員
2002年 4月～現在に至る	EERI (Earthquake Engineering Research Institute) 会員
2002年10月～現在に至る	(株)ビューローベリタスジャパン 60m以下の建築物の構造審査委員会 審査委員
2003年 7月～現在に至る	日本免震構造協会(国内学会)会員
2003年12月～現在に至る	(社)神奈川県建築士事務所協会 建築物耐震改修評価特別委員会 委員
2006年 8月～現在に至る	(社)免震構造協会構造性能評価委員会、評定委員会 委員
2007年 7月～2012年 6月	人事院公務員採用I種試験(理工I)試験 専門委員
2007年 9月～現在に至る	(株)ビューローベリタスジャパン 構造性能評価委員会、構造計算適合判定機関専門家委員会 委員
2008年～現在に至る	個人研究 鉄筋コンクリート構造の減衰性能について
2008年10月～2010年10月	企業からの受託研究(清水建設)1,500,000円 低降伏点鋼を用いた間柱型ダンパーの研究
2009年 5月～2011年 4月	日本建築学会2次設計小委員会・保有水平耐力検討WG 委員
2009年 9月～2013年 7月	(財)建築保全センター、建築改修工事監理指針改定委員会、耐震改修分科会、RC-WG 委員
2010年 4月～現在に至る	(財)日本建築センター コンクリート構造審査・評定委員会 委員
2010年 4月～2012年 3月	企業からの受託研究(清水建設)1,200,000円 高性能粘弾性体を用いた壁型制震ダンパーのRC取付部要素実験
2011年 4月～現在に至る	日本建築学会2次設計小委員会・規準作成WG 委員
2011年11月～2013年11月	日本建築学会JAABE編集委員会 委員
2012年 6月～現在に至る	日本免震構造協会(国内学会)理事
2012年 6月～2014年 5月	(社)日本建築学会(国内学会)代議員
2012年10月～2013年 3月	企業からの受託研究(新都市ハウジング協会)1,000,000円 アンボンDPC圧着梁のせん断耐力確認実験

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 曾我部 昌史	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
全学生同時の指導とグループ毎の指導を組み合わせた授業運営	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：建築デザイン3) 非常勤講師を含む全5人の教師陣によるスタジオ型(学生をグループに分ける設計教育スタイル)の体制で、個人との距離の近い教育を前提としている。同時に、毎回の授業のはじめに、全教員が数名の代表学生を指導することで、問題意識の共有を効率的、効果的に行っている。	
具体的なプロジェクトを通じた実践的教育	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：卒研輪講) 前期において、卒研輪講を設計教育の最終段階として位置づけ、実施レベルを含んだ設計やアートプロジェクトへの参加を通じた、具体的な建築への関わりを修得するべく指導を行っている。机上のみでは理解が難しい、幅広い知見を身につけることに役立っており、後期以降の具体的な卒業設計のプロセスにおいても大きな効果が確認できている。	
学外での建築作品の見学など	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：卒研輪講および建築デザイン輪講2) 建築設計者同士のネットワークをいかし、建築現場や竣工したばかりの建築作品の見学などを数多く計画している。見学後に行うディスカッションなどを通し、設計と空間そのものの関係をつなぐ視点の獲得に効果を得ている。	
論考の組み立て方の指導を兼ねたレポート	2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：都市デザイン論) 授業のテーマに即した小レポートを課す際、小論文の形式となるよう論の組み立て方の解説をしている。学生自身の論を組み立てることを習慣とし、理解を深める試みである。	
二段階方式によるキメ細かい卒業設計の最終審査	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：卒業設計) デザインコースの卒業研究のうち、建築の設計についての最終審査を2段階とした。ポスターセッション方式の卒業設計審査会で、全作品を教員、学生ともども把握し、その中から3分の1程度の作品を選定し、優秀作品発表会を行った。日程的には少々負担が増えるものの、効果の大きさが確認されている。	

学生同士の共同によるディスカッション能力の涵養とプレゼンテーション技術の習得	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：建築デザイン輪講2) 共通テーマを元にしたリサーチとそのプレゼンテーションを課している。修士の学生とのペアで行うことで、学生自身の関心をきっかけに視点を深めることになり、また、パワーポイントを用いたプレゼンテーションなど、丁寧にレベルの高い教育効果を上げている。
2 作成した教科書、教材		
建築作品映像の作成	2006年 4月 1日 ～現在に至る	建築の理解を深めるには、視覚情報が非常に有効である。紙媒体の資料だけでなく、映像資料(動画を含む)を授業の教材用にまとめ直して利用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2006年授業評価アンケート結果(造形デザインA)	2006年 ～現在に至る	全体に平均的な評価である。特徴的な点として、ほとんどの学生が「意欲的に取り組んだ」という自覚をもち、「授業に興味・関心が持てた」ことが特に際立った傾向を示していることが判った。
2006年授業評価アンケート結果(都市デザイン論)	2006年 ～現在に至る	「授業に興味・関心が持てた」「話し方は明確でひきつけた」「板書などはわかりやすかった」「熱意を感じた」などが、平均よりも際立って高い評価となっている。「総合的に満足」を得ていることも判る。一方「難易レベル」的にはそれほど高い難易度であるとは意識されていないことがわかり、次年度以降の調整のきっかけとなっている。
2007年授業評価アンケート結果(FYS)	2007年 ～現在に至る	全学共通で進められる科目であるが、大半の部分を建築の話題を軸に個人的に改変して授業を行った。その効果か、アンケート結果でも学生が大きな関心をもって関わったことが伺える。一方、個別に書かれた意見の中には、建築の話題を中心としていたためか、他学科との混成であることへの戸惑いも見られた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
建築設計実務に関わる視点での助言	2006年 4月 1日 ～現在に至る	神奈川大学に就任して以来、学生が、あるいは卒業生が具体的な建物の機会を得た場合等に、建築の実務に関わる様々な水準での助言を行っている。大学のカリキュラムと直接の関係を持つものではない場合も少なくないが、他の学生にとっても、実務的な思考に触れられる貴重な体験となっている。
5 その他		
工学部「教育委員会」委員としての活動	2007年 4月 1日 ～現在に至る	建築学科を代表する教育委員として、工学部の教育方針の審議等に関わってきた。
建築学科「教育改善検討委員会」委員としての活動	2007年 4月 1日 ～現在に至る	建築学科内で構成する「教育改善検討委員会」の委員として、学科の教育運営について議論・検討を行ってきた。
II 研究活動		

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2002年 4月～現在に至る		日本建築家協会 (JIA) 雑誌「建築家」編集委員 委員			
2003年 6月～現在に至る		くまもとアートポリスアドバイザー アドバイザー			
2004年 4月～現在に至る		日本文化デザインフォーラム(国内学会)会員			
2004年 4月～現在に至る		日本文化デザインフォーラム委員 委員			
2005年 4月～現在に至る		日本文化デザインフォーラム 幹事			
2005年 4月～現在に至る		日本文化デザインフォーラム(国内学会)幹事			
2006年 4月～現在に至る		新日本様式協議会(国内学会)会員			
2006年 4月～現在に至る		新日本様式協議会(国内学会)評議会委員			
2006年 5月～現在に至る		個人研究 老朽化した小規模店舗群の再利用に関する実践的研究-難町桜荘			
2006年 6月～現在に至る		個人研究 地方の農家の再利用に関する実践的研究-美術のための空間として			
2006年 6月～現在に至る		個人研究 震災体験を美術展示として伝える方法に関する研究			
2006年 9月～現在に至る		個人研究 シャッター街を大学キャンパスとして活用することの可能性についての研究			
2007年 4月～現在に至る		BankART1929 外部企画委員			
2007年 4月～現在に至る		個人研究 鉄道高架下の活用方法に関する実践的研究-京急高架下黄金町付近を題材に			
2008年 4月～現在に至る		国内共同研究 (日本工業大学小川研究室)八潮市街並みづくり景観研究			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 准教授	氏名 中井 邦夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
実例 ヴィジュアル教材と大型プロジェクターによる授業		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：建築計画A) 教科書のみならず、最新の事例をカラー写真や図面資料などの豊富なヴィジュアル教材を大型プロジェクターによって映写し解説することにより、学生の関心を引き出し、より具体的な実感を与えることができた。
実践的な設計活動と職能の学修		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：設計製図2) 実践的な能力が重要視される設計製図の特質を考慮し、一級建築士資格を有する実務家の非常勤講師を招き、実践的な設計活動について学修させるとともに、建築設計という職能についての理解を深める。
講義と製図との連動方式の採用		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：建築計画A, 設計製図2) 名作建築作品事例の紹介を講義授業で行い、製図授業においてその事例の図面を自らトレースすることにより、通常の製図の授業のみでは達成しにくい、設計意図の理解と実践的な図面制作との連続的な習得を可能とした。
論述・発表・議論を連動した批評型授業の採用		2008年10月 1日 ～現在に至る	(授業科目：大学院計画特論2) 文献講読、それについての論述、発表、議論を連動させることにより、個別のテーマについて、様々な意見を知り、それらを自らの視点から批評する能力を養うことが可能となる。
2 作成した教科書、教材			
「建築計画A」「設計製図2」の教材作成		2012年 3月30日 ～現在に至る	自著『建築構成学 建築デザインの方法』(共著)を授業のテキストとして使用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
平成21年度前期優秀講義賞		2009年10月14日 ～現在に至る	
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
建築学科「教育改善検討委員会」における活動		2009年 4月 1日 ～現在に至る	ファカルティ・デベロップメントや学科における様々な教育課題について検討し、継続的な改善活動を行っている。

工学部「FD委員会」における活動	2013年 4月 1日 ～現在に至る	工学部のファカルティ・デヴェロップメントの一環として、建築学科の模範授業の企画と実施を行い、その意見集約と検討報告の作成を通して、継続的な改善活動を行っている。			
建築学科「成績追跡調査委員」としての活動	2013年 4月 1日 ～現在に至る	学生の成績の実態や推移について追跡調査を行い、課題の検討と継続的な改善活動を行っている。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
建築構成学 建築デザインの方法	共著	2012年 3月	(実教出版)	坂本一成、塚本由晴、岩岡竜夫、小川次郎、中井邦夫、足立真、寺内美紀子、美濃部幸郎、安森亮雄	84-93, 103-112頁
住宅とは何か	共著	2013年 7月	(エクスナレッジ)		pp. 136-155頁
論文					
横浜の防火帯建築における空所の構成(査読付)	単著	2015年 2月	日本建築学会計画系論文集(日本建築学会) 80(708)		323-330頁
木造住宅の改修に関する実践的研究 スノコ・ハウスー光と風をとり込むインナー・オープンスペースの提案ー	単著	2015年 3月	神奈川大学工学部報告(神奈川大学工学部) (53)		34-38頁
その他					
(建築作品) 逗子市第一運動公園再整備基本計画策定及び基本設計業務 公募型プロポーザルコンペ 次点入賞作品(査読付)	共著	2010年 6月	逗子市環境都市部緑政課	鈴木信弘、中井邦夫、小倉亮子、岩波将広、重岡圭紀、関口智章、田中紗由李、保科慎平 ほか	
床面の段差と開口からの風景による現代住宅建築の構成	共著	2010年 9月	日本建築学会 2010年大会(北陸) 学術講演梗概集(F-2)	岩波将広、中井邦夫	pp. 777-778頁

横浜駅周辺における橋空間の構成	共著	2010年 9月	日本建築学会 2010年大会（北陸）学術講演梗概集(F-2)	重岡圭紀、中井邦夫	pp. 321-322頁
都電荒川線における停留所を中心としたまちの構成	共著	2010年 9月	日本建築学会 2010年大会（北陸）学術講演梗概集(F-2)	中井邦夫、宮沢慎次郎	pp. 315-316頁
(建築作品) 桜山の住宅(計画案)	共著	2010年12月	新建築住宅特集、新建築社 (297)	中井邦夫、小倉亮子、神奈川大学中井研究室	169頁
住宅における構造部材の配置による構成	共著	2011年 8月	2011年大会（関東）学術講演梗概集(E-1)	五十嵐是範、中井邦夫	801-802頁
(記事) 建築家自邸からの家学び「相模原の住宅」(前編)	共著	2011年 8月	新建築住宅特集(新建築社) (2011年9月号)	真壁智治、野沢正光、野沢富士子、曾我部昌史、中井邦夫、曾我部昌史研究室、中井邦夫研究室	142-153頁
(記事) 建築家自邸からの家学び「相模原の住宅」(後編)	共著	2011年 9月	新建築住宅特集(新建築社) (306)	真壁智治、野沢正光、曾我部昌史、中井邦夫、曾我部昌史研究室、中井邦夫研究室	90-99頁
地形と環境要素からみた郊外の駅周辺における空間構成	共著	2012年 9月	2012年大会（東海）学術講演梗概集 建築歴史・意匠	持田健人、中井邦夫	515-516頁
埋立地における水辺空間の構成	共著	2012年 9月	2012年大会（東海）学術講演梗概集 建築歴史・意匠	森紀樹、中井邦夫	511-512頁
斜面地における住宅地の街路構成	共著	2012年 9月	2012年大会（東海）学術講演梗概集 建築歴史・意匠	小林優、中井邦夫	501-502頁
水路と交通路の複合する都市の領域構成	共著	2012年 9月	2012年大会（東海）学術講演梗概集 建築歴史・意匠	重岡圭紀、中井邦夫、鈴木成也	507-510頁
渋谷の坂道沿いの店舗がつくる商業空間	共著	2012年 9月	2012年大会（東海）学術講演梗概集 建築歴史・意匠	川島新奈、中井邦夫	499-500頁
鉄道の車窓から見た横浜の風景構成	共著	2012年 9月	2012年大会（東海）学術講演梗概集 建築歴史・意匠	穂高亜未、中井邦夫	517-518頁

(論説) 倫理学としての『生きられた家』	単著	2013年 4月	『多木浩二と建築』(建築と日常)		62-66頁
横浜の防火帯建築と隣接要素がつくる空間構成—横浜防火建築帯に関する構成的研究(1)—	共著	2013年 9月	2013年日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集 建築歴史・意匠	原誠、中井邦夫	87-88頁
海岸線形状と環境要素に着目したウォーターフロントの公共空間の構成	共著	2013年 9月	2013年日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集 建築歴史・意匠	鈴木成也、中井邦夫	177-178頁
海沿いの街における幹線道路から見える海への風景—神奈川県葉山町を事例として—	共著	2013年 9月	2013年日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集 建築歴史・意匠	花形将壽、中井邦夫	147-148頁
隣接する建物立面と空地の連なりからみた緑道沿いの空間構成	共著	2013年 9月	2013年日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集 建築歴史・意匠	長澤知世、中井邦夫	85-86頁
(建築作品) スノコ・ハウス—光と風をとり込むインナー・オープンスペース—(査読付)	共著	2013年10月	第30回住まいのリフォームコンクール入賞作品集、公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター	神奈川大学中井研究室	28頁
(建築作品) 札幌市資料館リノベーション計画案(査読付)	共著	2014年 7月	札幌市資料館リノベーションアイデアコンペティション展示会、札幌市資料館 2014年7月19日～9月28日	神奈川大学中井研究室中井邦夫、漆原卓、岡田啓佑、生駒将大、伊藤瞳、桑原強志、三浦みづき、宮崎瑞紗、百瀬大地、森下恵介、鈴木成也	
ランドスケープと家具、開口から考える空間の構成	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	川島新奈、中井邦夫	219-220頁

人の動きと設えの配列から見た祭り空間の構成 一仙台、一宮、山口の七夕まつりを事例に一	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	大川翔、中井邦夫	213-214頁
六角橋商店街仲見世通りにおける構えと店内構成からみた店舗とその連なり	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	花形将壽、中庭耕太、中井邦夫	217-218頁
山口文象/RIA 設計による神奈川大学旧3号館の意匠表現	単著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠		245-246頁
新旧の建物の混在による街の構成一横浜市中区伊勢佐木町を事例として一	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	岡田啓佑、中井邦夫	369-370頁
横須賀市における坂の上から望む谷戸の風景	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	原誠、伊藤壮平、中井邦夫	357-358頁
水路と高架の重なり方による空間構成	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	小泉恵子、中井邦夫	211-212頁
超高層ビルを含む街区の構成とその集合による街の構成	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	漆原卓、中井邦夫	355-356頁
隣接要素との関係からみた斜面緑地の構成	共著	2014年 9月	日本建築学会 建築歴史・意匠	小林優、藤澤知広、中井邦夫	209-210頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1993年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員				
2009年 4月～現在に至る	個人研究 建築および都市の空間構成に基づく研究				
2009年10月～2010年 9月	文部科学省「平成21年度大学教育のための戦略的大学連携支援プログラム」(代表校;横浜国立大学)に基づく横浜文化創造都市スクール(北仲スクール)への参加 講師				
2010年 4月～2012年 3月	機関内共同研究(神奈川大学共同研究奨励助成)神奈川学・空間地域学の構築一歴史・環境・生活を総合する空間資源活用型地域デザイン				
2011年 4月～現在に至る	個人研究 都市の水辺空間の構成に関する研究(研究代表者)				
2012年 4月～現在に至る	個人研究 防火建築帯の空間構成に関する研究				
2014年10月～現在に至る	JIA神奈川 防火帯建築研究会 研究メンバー				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 内田 青蔵	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
住まい学入門		1998年 3月 ～現在に至る	放送大学「住まい学入門」の教科書作成 本間博文、長橋純男、(内田青蔵)で制作。		
日本の技術革新		2008年 3月 ～現在に至る	放送大学「日本の技術革新」の教科書作成。 清水慶一、三上喜貴、野城智也編著		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
お屋敷散歩	単著	2011年11月	(河出書房新社)		
近代日本生活文化基本 文献集全3期		2012年 4月	(日本図書センター)		
世界一美しい団地図鑑	共著	2012年 7月	(エックスナレッジ)	志岐祐一、内田青蔵、安野彰、 渡辺裕子	
論文					

植民地朝鮮における朝鮮建築会の住宅改良に関する活動について	共著	2011年12月	神奈川大学工学研究所報 (34)	金容範	34-42頁
明治・大正期の邸宅建築の「間取り」について	単著	2012年11月	武庫川女子大学生生活美学 研究所紀要 (22)		21-31頁
近代朝鮮における改良温突（オンドル）の開発と商品化に関する一考察	共著	2012年11月	神奈川大学工学研究所報 (35)	金容範	66-75頁
その他					
近代日本住宅の変容過程について―「洋風化」と間取りの変化を中心として―		2012年 3月	(韓国・ソウル・漢陽大学)		

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
1975年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
1981年 4月～現在に至る	日本風俗史学会(国内学会)会員
1983年 4月～現在に至る	建築史学会会員
1983年 7月～現在に至る	日本生活文化史学会(国内学会)会員
1989年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)文献抄録小委員会第7部会委員
1989年 6月～現在に至る	世田谷区立美術館主催「世田谷美術館区民講座」講師、テーマ「文化住宅と生活改善」
1989年 7月～現在に至る	住宅総合研究財団主催「住宅総合研究財団シンポジウム・住文化にみる近代化の足跡」パネラー、テーマ「椅子座式生活様式の導入過程に関する一考察」
1989年 9月～現在に至る	住まいの図書館主催「住まい学大系シンポジウム」パネラー、テーマ「理想の住まいを求めて」
1990年 5月～現在に至る	積水ハウス株式会社主催「積水ハウス講演会」講師、テーマ「洋風住宅開拓史」
1990年 9月～現在に至る	科研(代表・筑波大学日高健一郎)「小アジアとその周辺地域における大規模な組積造ドームの構造と歴史に関する学術調査」の研究補助員としてトルコ共和国の調査に参加(平成2年・3年各一ヵ月参加)
1991年 1月～現在に至る	北区教育委員会主催「北区区民大学」講師、テーマ「戦前の住宅と文化的な生活」
1991年 7月～現在に至る	住宅総合研究財団主催「江戸東京フォーラム」講師、テーマ「東京市営住宅事業について」
1991年 7月～現在に至る	日本住宅会議関東支部主催「日本住宅会議関東支部セミナー」講師、テーマ「近代日本の住様式再考」
1992年～現在に至る	日本生活文化史学会(国内学会)理事
1992年 2月～現在に至る	国立市教育委員会主催「国立市市民講座」講師、テーマ「戦前期の住宅と生活」
1992年 3月～現在に至る	名橋「日本橋」保存会主催「日本橋名建築めぐり」講師

1992年 8月～現在に至る	豊島区教育委員会 歴史的建造物調査委員
1992年11月～現在に至る	中央区教育委員会主催「中央区文化財めぐり」講師、テーマ「中央区近代建築めぐり」
1993年10月～現在に至る	早稲田大学大学院公開講座講師、テーマ「住宅改良運動と早稲田建築学科」
1993年11月～現在に至る	豊島区教育委員会主催「豊島区文化財講座」講師、テーマ「住まいの歴史と文化」
1994年 4月～現在に至る	日本生活学会(国内学会)会員
1994年10月～現在に至る	北海道大学建築学科建築計画第2研究室主催「第15回 建築シンポジウム」講師、テーマ「あめりか屋と住宅改良運動」
1995年～現在に至る	江戸東京博物館「田園調布の家・大川邸」ビデオ監修
1995年 9月～現在に至る	日本建築学会大会研究協議会「保存の未来と建築教育」パネラー、テーマ「建築歴史教育で保存・修復教育にどう取り組むか？」。
1995年 9月～現在に至る	江戸東京博物館小金井たてもの園主催「江戸東京たてもの園セミナー」講師、テーマ「生活改善運動とその思想」
1995年11月～現在に至る	早稲田大学大学院公開講座講師、テーマ「日本近代住宅史と早稲田建築学科」
1995年11月～現在に至る	豊島区立郷土資料館主催「地域史講座」講師、テーマ「郊外住宅地の形成と郊外住宅の誕生」
1996年 3月～現在に至る	新宿区役所生活文化部地域振課主催「コミュニティ講座」講師、テーマ「住宅とコミュニティ」
1996年 3月～現在に至る	松戸市教育委員会主催「東京高等工芸学校をめぐるシリーズ講演」講師、テーマ「日本近代住宅にみる住空間の変遷」
1996年 8月～現在に至る	「生きられた同潤会代官山アパート」シンポジウムパネラー、テーマ「同潤会と代官山アパート」
1996年10月～現在に至る	中央区教育委員会主催「文化財めぐり」講師、テーマ「近代建築を訪ねて」
1996年10月～現在に至る	早稲田大学大学院「日本近現代建築史」講師、テーマ「日本近代住宅設計の系譜」
1996年12月～現在に至る	ネパール建築の修復工事に関する国際会議参加
1997年 5月～現在に至る	文京区区民講座講師、テーマ「佐野利器と住宅改良運動」
1997年 5月～現在に至る	神奈川大学公開講座講師、テーマ「輸入住宅の動向から見たわが国の住宅の歩み」
1997年10月～現在に至る	早稲田大学大学院「日本近現代建築史」講師、テーマ「日本近代の住宅論争」
1997年11月～現在に至る	OZONEセミナー「近代住宅100年」講師
1997年11月～現在に至る	しきり展トークセッション「建築としきり」出演者
1998年 9月～現在に至る	日本健康心理学会シンポジウム「健康と文化」講師。
1998年 9月～現在に至る	東京電力株式会社 平成10年度「住まいと街づくり塾」講師、テーマ「明治以降の住宅の変遷過程における喚起・通風への配慮とその動向」
1998年10月～現在に至る	江戸東京自由大学講師、テーマ「江戸東京住まいのおしゃれ」
1999年 1月～現在に至る	日本ナショナルトラスト「民家・町並みサークル見学会」講師。
1999年 2月～現在に至る	住宅総合研究財団助成研究により、アメリカのボストン市を中心とした海外調査
1999年 3月～現在に至る	平成10年度 第72期北区区民大学講師、テーマ「生活改善と住まいの近代化」
1999年 3月～現在に至る	横浜洋館付きモダン住宅研究会主催シンポジウム 講師
1999年 4月～現在に至る	日本生活文化史学会関東支部月例会講師、テーマ「わが国戦前期の輸入住宅の動向に関する一考察」。
1999年10月～現在に至る	日本建築セミナー主催、小笠原邸見学会講師。
1999年11月～現在に至る	川越市中央公民館主催・教養講座「人と住まいの歴史」講師
1999年11月～現在に至る	豊島区主催「区内の近代建築をあるく」講師

2000年 1月～現在に至る	昭和のくらし博物館主催・土曜夜間講座講師・テーマ「台所からみた日本近代住宅の歩み」
2000年 4月～現在に至る	東京都文京区文化財保護審査会 委員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 「台所」を中心とした我が国住宅建築にみられる技術革新の様相と生活への影響について
2005年 4月～現在に至る	個人研究 戦前期に清水組（現清水建設株式会社）の手がけた住宅建築の様式分析と設計システムに関する研究
2007年 4月～現在に至る	東京都豊島区文化財保護審査会 委員
2007年10月～現在に至る	日本生活学会(国内学会)『生活学論叢』編集委員会委員長
2008年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)図書委員会幹事
2008年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)論文集編集委員会幹事
2009年 4月～現在に至る	個人研究 横浜市の近代建築の変遷過程に関する研究
2009年 4月～2011年 3月	文化財保護審議委員会 委員
2010年 4月～2012年 3月	日本生活学会(国内学会) 副会長
2010年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 1,560,000円 「基盤研究(C)」わが国の幕末から戦前期における「近代和風住宅」の設計手法に関する研究 (研究代表者)
2011年 4月～現在に至る	個人研究 (科学研究費)455,000円 衛生設備技術等の変遷からみた明治・大正初期における上流の邸宅に関する研究
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 455,000円 「基盤研究C」衛生思想の展開ならびに設備技術等の関係から見た明治・大正初期における上流の邸宅 (研究分担者)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 重村 力	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
楊廷宝 (ヤンティンポウ) の建築作品における軸の設計手法に関する研究 (査読付)	共著	2010年 5月	日本建築学会計画系論文 集 (No. 651)	曲藝 重村力 浅井保	1111-1116頁
地形対応型設計手法から見た斎康の建築設計思想に関する研究 (査読付)	共著	2010年 9月	日本建築学会計画系論文 集 (No. 655)	曲藝 重村力 浅井保	2213-2138頁

その他				
なし				
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
年月	内容			
1971年 7月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員			
1985年 4月～現在に至る	兵庫県景観形成審議会 委員			
1985年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 2,000,000円 「総合研究(B)」集落空間計画の目標と方法に関する研究(研究代表者)			
1988年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 3,800,000円 「総合研究(A)」定住拠点としての集落空間計画に関する研究(研究代表者)			
1990年11月～現在に至る	日本建築家協会 会員			
1993年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 2,400,000円 「総合研究(B)」東アジアの集住文化に関する研究企画(研究代表者)			
1996年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 2,000,000円 「基盤研究(C)」阪神大震災により被災した既存住宅市街地の復興に地区生活主体の果たす役割の研究(研究代表者)			
1997年 8月～現在に至る	アメリカ建築家協会 名誉フェロー			
1999年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 23,300,000円 「基盤研究(A)」児童・生徒の農的体験を通じた環境教育に関する研究(研究代表者)			
2001年10月～現在に至る	大学基準協会工学系研究科基準検討委員会 委員			
2002年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 15,600,000円 「基盤研究(B)」学校環境ストックを評価し環境共生的で創発的な教育空間をつくるリノベーション方法(研究代表者)			
2002年12月～現在に至る	農村計画学会(国内学会)会員			
2003年10月～現在に至る	その他の補助金・助成金(文部科学省)508,814,000円 「21世紀COEプログラム」安全と共生のための都市空間デザイン戦略(拠点リーダー)(研究代表者)			
2004年 1月～現在に至る	日本学術振興会科学研究費委員会 専門委員			
2004年 2月～現在に至る	日本医療福祉建築協会 会員			
2005年 4月～現在に至る	Environmental Design Research Association Member			
2006年10月～現在に至る	こども環境学会(国内学会)会員			
2007年 6月～現在に至る	科学研究費補助金 34,500,000円 「基盤研究(A)」ジャワ島中部地震被災地における居住地環境の復興に関する総合的研究(研究代表者)			
2009年 4月～2012年 3月	個人研究 コミュニティに基盤を置く自然災害復興に関する研究			
2009年 4月～2012年 3月	個人研究 創発的で環境共生的な学校空間に関する研究			
2009年 4月～2012年 3月	個人研究 大都市における農地・緑地・農村の共存による環境の再生と持続に関する研究			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 趙 衍剛	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1992年 4月～現在に至る		日本建築学会(国内学会)会員			
2000年 4月～現在に至る		個人研究 構造耐震安全性評価法に関する研究			

2001年 9月～現在に至る	アメリカ土木学会(国際学会)会員
2002年 4月～現在に至る	個人研究 鉄骨骨組の柱梁耐力比に関する確率論的研究
2006年10月～現在に至る	IFIP WG7.5—Reliability and Optimization of Structural Systems Committee Member
2007年 4月～現在に至る	日本建築センター鉄鋼系住宅構造審査委員会 委員
2007年 4月～現在に至る	日本建築学会 確率・統計手法の工学利用小委員会 委員
2008年10月～現在に至る	Journal of Asian Architecture and Building Engineering Member of Editorial Board
2009年 1月～2010年12月	国際共同研究 (中国自然科学基金会)3,000,000円 不完全情報環境における構造システムの信頼性評価法に関する研究

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特別助教	氏名 三笠 友洋	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
小建築物の設計・施工を通じた実践的デザイン教育		2011年 4月 1日 ～現在に至る	工学部テクノサークル制度を利用し、3年生を中心に小建築の設計施工を行っている。自ら施工することを前提に小建築物をデザインすることで、素材や工法とデザインとの間に関係に対する理解を深めることができた。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
A Study on the planning of spatial relations in neighborhoods (査読 付)	共著	2010年10月	The 8th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia	三笠友洋、重村力	

被災漁村集落における住まいの特徴と地域型復興住宅の課題：大船渡市三陸町崎浜集落の事例を元に	単著	2012年12月	農村計画学会誌 31(3)		
小字区域に着目した谷戸の基礎的単位の抽出とその特徴：横浜市戸塚区旧川上村を事例に（査読付）	共著	2013年12月	日本建築学会計画系論文集 78(694)	内平隆之、山崎義人、 <u>三笠友洋</u> 、田中貴宏、重村力	
GISを活用した谷戸の基礎的単位の抽出手法に関する研究：横浜市を事例に（査読付）	共著	2014年 4月	日本建築学会計画系論文集 79(698)	田中貴宏、 <u>三笠友洋</u> 、内平隆之、山崎義人、重村力	933-938頁
その他					
energy capture housing（査読付）	共著	2011年 3月		<u>三笠友洋</u> 、藤村良仁、西村翼、外間守咲	
共存地域 ～救援動線と拠点の提案～（査読付）	共著	2011年 6月	R&R建築再生展2011	谷口翔、森島啓太、木下峻介、藤村貴浩、重村力、 <u>三笠友洋</u>	
大きな家の風景（査読付）	共著	2011年 6月	R&R建築再生展2011	土田直樹、西村翼、蛭田和磨、重村力、 <u>三笠友洋</u>	
高地居住への挑戦ー3度目のしょうじきー（査読付）	共著	2011年 6月	R&R建築再生展2011	平山悠希、小松沙央理、Natadjaja Puji、永島大、重村力、 <u>三笠友洋</u>	
Re:base network（査読付）	共著	2011年 8月	こども環境学会	<u>三笠友洋</u> 、成田佑弥、大西由梨佳、谷口翔、宮脇毅、武富俊太	
オカミのイエ（査読付）	共著	2013年 8月	「建築雑誌」（日本建築学会）	<u>三笠友洋</u> 、青木裕、石田卓朗、外間守咲、塩脇祥、野口この実、重村力	
自然と都市が近い奥内「エコライフ・拠点」（査読付）	共著	2014年 5月	団地再編 COMPETITION2013 最優秀賞	重村力、 <u>三笠友洋</u> 、外間守咲、塩脇祥、早坂駿、井上裕子、中野由美子、他	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
2001年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	その他の補助金・助成金(財団法人トステム建材産業振興財団)150,000円 計画的住宅地における環境単位のプロトコルに関する研究(研究代表者)
2004年 4月～現在に至る	都市住宅学会(国内学会)会員
2010年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 12,480,000円 「基盤研究(B)」市街地における生活環境資源としての「谷戸」の研究(研究分担者)
2010年 4月～2014年 3月	競争的資金等の外部資金による研究(科学研究費補助金)市街地における生活環境資源としての「谷戸」の研究
2012年 4月～現在に至る	日本建築学会農村計画委員会集落復興再生小委員会 幹事
2012年 4月～2015年 3月	競争的資金等の外部資金による研究(科学研究費補助金)三陸漁村集落の津波被災状況の分析と復興計画および復興過程に関する参与的研究
2012年 4月～現在に至る	農村計画学会(国内学会)会員
2012年 4月～現在に至る	農村計画学会誌編集委員会 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特別助教	氏名 齊藤 隆典	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Finite Element Analysis of Reinforced Concrete Frame Subassemblies Considering Material Non-Linearity (査読 付)	共著	2013年 7月	Journal of Japan Industrial Management Association Vol.64 (No. 2E, Special Issue on "Diversity of Applications in Industrial Engineering ")	Takasuke Saito, Yan-Gang Zhao	

コンクリート圧縮特性評価に及ぼすコンクリートコア採取方法の影響 (査読付)	共著	2014年 3月	構造工学論文集 Vol. 60B	齊藤隆典, 秋山友昭, 趙衍剛	
デジタル画像関連法を用いたコンクリートの光学的全視野変形計測 (査読付)	共著	2014年 7月	コンクリート工学年次論文集 Vol. 36	齊藤隆典, 趙衍剛	
その他					
Ai分布を考慮した鉄骨骨組の柱梁耐力比に関する確立論的評価	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)、早稲田大学	今田匡彦、齊藤隆典、趙衍剛	141-142頁
修正圧縮場理論を用いたRC柱梁接合部のせん断特性評価に関する検討	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)、早稲田大学	齊藤隆典、趙衍剛	313-314頁
円形CFT短柱におけるコンクリートの拘束係数に関する実験的研究 (その1-2)	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)、早稲田大学	陳権、齊藤隆典、秋山友昭、趙衍剛	1169-1172頁
工学的基盤面での基準化加速度応答スペクトルに対応したパワースペクトルの定式化	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)、早稲田大学	瀬戸貴仁、齊藤隆典、趙衍剛	131-132頁
腐食を考慮するRC梁の信頼性解析	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東)、早稲田大学	山崎直紀、齊藤隆典、趙衍剛	183-184頁
Material non-linear analysis of RC beam-column joint subassemblies under cyclic loadings	共著	2012年 8月	Reliability Engineering and Risk Management (ISRERM2012), Kanagawa University	Takasuke Saito, Yan-Gang Zhao	171-176頁

Probabilistic evaluation of COF for steel frames considering system reliability	共著	2012年 8月	Reliability Engineering and Risk Management (ISRERM2012), Kanagawa University	Masahiko Konta, <u>Takasuke Saito</u> , Yan-Gang Zhao	165-170頁
A New Analytical Model for Reinforced Concrete Beam-Column Joints Subjected to Cyclic Loading	共著	2012年 9月	15 World Conference on Earthquake Engineering(WCEE), Lisbon, Portugal	<u>Takasuke Saito</u> , Masaru Kikuchi	
コア採取による構造体コンクリート強度の推定(その2コア供試体と標準供試体の比較・考察)	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、名古屋大学	秋山友昭、外山貴彦、 <u>齊藤隆典</u> 、趙衍剛	749-750頁
コア採取による構造体コンクリート強度の推定(その1供試体の調査計画)	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、名古屋大学	外山貴彦、秋山友昭、 <u>齊藤隆典</u> 、趙衍剛	747-748頁
一定信頼性レベルにおける地震荷重とCOFの関係式	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、名古屋大学	今田匡彦、 <u>齊藤隆典</u> 、趙衍剛	73-74頁
円形CFT短柱におけるコンクリートの拘束係数およびスケール効果に関する実験的研究	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、名古屋大学	陳権、 <u>齊藤隆典</u> 、趙衍剛	1345-1346頁
工学的基盤面での基準化加速度パワースペクトルの定式化ー基盤卓越周期をパラメータとしてー	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、名古屋大学	瀬戸貴仁、 <u>齊藤隆典</u> 、趙衍剛	55-56頁
画像解析手法を用いた構造部材の非接触型変形計測システムの開発	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)、名古屋大学	<u>齊藤隆典</u> 、趙衍剛	747-748頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
2004年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
2004年 4月～現在に至る	社団法人日本建築学会 会員
2005年～現在に至る	個人研究 接合部の劣化メカニズムを考慮したRCフレーム構造の非線形挙動解析に関する研究
2005年 9月～現在に至る	日本コンクリート工学会(国内学会)会員
2005年 9月～現在に至る	社団法人日本コンクリート工学協会 会員
2008年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 600,000円 「特別研究員奨励費」接合部の劣化メカニズムを考慮したRCフレーム構造の非線形挙動解析に関する研究 (研究代表者)
2009年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 600,000円 「特別研究員奨励費」接合部の劣化メカニズムを考慮したRCフレーム構造の非線形挙動解析に関する研究 (研究代表者)
2010年～現在に至る	個人研究 画像解析手法を用いた非接触型全視野変形計測法に関する研究
2010年 9月～現在に至る	科学研究費補助金 1,110,000円 「平成22年度 科学研究費補助金 研究活動スタート支援」立体画像解析を用いた構造部材の非接触型三次元変形計測システムの開発 (研究代表者)
2011年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 702,000円 「平成23年度 科学研究費補助金 研究活動スタート支援」立体画像解析を用いた構造部材の非接触型三次元変形計測システムの開発 (研究代表者)
2011年 8月～2012年 8月	国際シンポジウムInternational Symposium on Reliability Engineering and Risk Management(ISRERM2012)実行委員会 総務部会委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部建築学科	准教授	安田 洋介	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
dotCampusを活用した授業の実践		2010年 4月 1日 ～現在に至る	dotCampusを活用した資料配布、レポートの提出と状況の管理・遅れ提出の簡便化等
授業内容のインターネット上での公開		2010年 4月 1日 ～現在に至る	配布資料の公開、演習問題解答の公開等
2 作成した教科書、教材			
各種配布資料		2010年 4月 1日 ～現在に至る	PPT資料、実験用資料、演習課題用資料
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
神奈川大学 生涯学習エクステンション講座 講師		2010年11月 ～2010年11月	連続講演会 暮らしの中のサイエンス「快適で環境にやさしい住宅内環境を創り出すために ―住宅を新築・改築・購入する前に知っておこう―」～静かで目にやさしい音・光環境を創り出すために
日本建築学会 シンポジウム 講師		2011年 3月 ～2011年 3月	波動音響解析におけるモデリング (3) 局所作用と拡張作用, 日本建築学会第68回音シンポジウム「音響設計実務と数値解析モデリング」
日本建築学会 チュートリアル 講師		2012年 5月 ～2012年 5月	境界要素法―効率化の手法, 日本建築学会 チュートリアル「音環境の数値シミュレーション」第1回 波動音響解析の技法
神大テクノフェスタ2012 講演会		2012年12月 ～2012年12月	「コンサートホールにおける舞台演奏台の音響効果」
九州大学大学院 建築環境学最先端特別講義 講師		2014年 7月31日 ～2014年 8月 1日	九州大学大学院人間環境学研究院における連続講義のうち、「建築と音環境の関わり ―望ましい音・望ましくない音・その予測―」のタイトルで5コマを担当
5 その他			
工学部「FD委員会」における活動		2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日	

工学部建築学科「教育改善検討委員会」における活動	2011年 4月 1日 ～現在に至る	教員の教授内容、方法の改善、シラバスの作成、カリキュラム改編などについて議論し、将来を見据えた継続的な活動を行っている。			
国家公務員採用一般職試験 試験専門委員	2012年 9月 6日 ～現在に至る	建築・大卒程度			
東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士学位論文審査委員会 学外審査員	2013年 2月 1日 ～2013年 2月 1日				
東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士学位論文審査委員会 学外審査員	2015年 1月29日 ～2015年 1月29日				
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
音環境の数値シミュレーション 一波動音響解析の技法と応用一	共著	2011年 9月	(日本建築学会)		
Computational Simulation in Architectural and Environmental Acoustics - Methods and Applications of Wave-Based Computation	共著	2014年 8月	(Springer-Verlag)	Tetsuya Sakuma, Shinichi Sakamoto, Toru Otsuru (Eds.)	
論文					
A fast multipole BE analysis of a small room with sound absorbers using domain decomposition approach	共著	2010年 6月	Proc. Inter-Noise 2010 (Lisbon) (No. 0503)	Y. Yasuda K. Eda, T. Sakuma and T. Oshima	
Acoustical effects of columns, beams and furniture on sound fields in small enclosures	共著	2010年 8月	Proc. 20th Int'l Cong. Acoust. 2010 (Sydney) p813	K. Eda, Y. Yasuda and T. Sakuma	

The fast multipole BEM for low-frequency acoustic problems based on degenerate boundary formulation	共著	2010年 8月	Proc. 20th Int'l Cong. Acoust. 2010 (Sydney) p503	<u>Y. Yasuda</u> , T. Oshima, T. Sakuma, A. Gunawan and T. Masumoto	
Fast multipole boundary element method for low-frequency acoustic problems based on a variety of formulations (査読付)	共著	2010年12月	Journal of Computational Acoustics 18(4)	<u>Y. Yasuda</u> , T. Oshima, T. Sakuma, A. Gunawan, T. Masumoto	363-395頁
An efficient technique for plane-symmetrical acoustic problems in low-frequency FMBEM	共著	2011年 9月	Proc. Inter-Noise 2011 (Osaka) Tue-3-1	<u>Y. Yasuda</u> , K. Higuchi, T. Oshima and T. Sakuma	
Numerical investigation of the niche effect in sound insulation measurement	共著	2011年 9月	Proc. Inter-Noise 2011 (Osaka) Tue-6-5	T. Sakuma, K. Adachi and <u>Y. Yasuda</u>	
Application of the constrained interpolation profile method to room acoustic problems: Examination of boundary modeling and spatial/time discretization (査読付)	共著	2012年 1月	Acoustical Science & Technology 33(1)	Y. Tachioka, <u>Y. Yasuda</u> and T. Sakuma	21-32頁

A basic investigation for prediction of outdoor sound propagation in large area using low-frequency FMBEM: effect of shapes and distribution of objects on computational accuracy and efficiency	共著	2012年 8月	Proc. Inter-Noise 2012 (New York) 487	<u>Y. Yasuda</u> , K. Higuchi, H. Sekine and T. Oshima	
Efficient technique in low-frequency fast multipole boundary element method for plane-symmetric acoustic problems (査読付)	共著	2012年10月	Engineering Analysis with Boundary Elements 36(10)	<u>Y. Yasuda</u> , K. Higuchi, T. Oshima and T. Sakuma	1493-1501頁
A study on establishing benchmarks for acoustical parameters derived from impulse responses	共著	2013年 6月	Proc. Int. Sympo. Room Acoust. (ISRA) 2013 (Toronto) P107	K. Hoshi, H. Okubo, J. Kanda, T. Asakura, A. Marui, H. Miyazaki, M. Yairi and <u>Y. Yasuda</u>	
Difference between locally-reactive and extended-reactive boundary conditions in a non-diffuse sound field with unevenly-distributed sound absorbers	共著	2013年 9月	Proc. Inter-Noise 2013 (Innsbruck) 0597	<u>Y. Yasuda</u> , M. Kadota and H. Sekine	

Helmholtz共鳴器を有する高性能乾式遮音二重床の開発 —2質点系モデルに基づく遮音特性の解明— (査読付)	共著	2014年 4月	日本建築学会環境系論文集 79(698)	安田洋介, 関根秀久, 渡辺一弘, 藪下満, 堀内秀樹	313-322頁
Acoustical characteristics of preserved wooden style Kabuki theaters in Japan	共著	2014年 9月	Proc. Forum Acusticum 2014 (Krakow) R03D_1	C. Büttner, S. Weinzierl, M. Yabushita, Y. Yasuda	
その他					
PUプローブを用いた窓ガラスの音響透過損失測定	共著	2010年 9月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	安達光平, 安田洋介, 佐久間哲哉	209-210頁
小型ピアノ練習室において室仕様が音場に及ぼす影響 音響測定及び波動数値解析による検討	共著	2010年 9月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	江田和司, 安田洋介, 佐久間哲哉	359-360頁
高速多重極BEMの汎用化	共著	2010年 9月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	安田洋介, 大嶋拓也, 佐久間哲哉	271-274頁
暮らしの中のサイエンス 「快適で環境にやさしい住宅内環境を創り出すために —住宅を新築・改築・購入する前に知っておこう—」～静かで目にやさしい音・光環境を創り出すために	単独	2010年11月	神奈川大学生涯学習エクステンション講座 連続講演会(横浜)		
対称音場のための低周波数域FMBEM	共著	2010年12月	日本音響学会建築音響研究会資料 AA2010-51	安田洋介, 樋口和孝, 大嶋拓也, 佐久間哲哉	

建築音響・騒音制御分野における高速多重境界要素法	共著	2011年 3月	理論応用力学講演会講演論文集 OS05-01	安田洋介, 大嶋拓也, 佐久間哲哉	
波動音響解析におけるモデリング(3)局所作用と拡張作用	共著	2011年 3月	日本音響学会建築音響研究会資料, AA2011-11, 日本建築学会環境工学本委員会音環境運営委員会 第68回音シンポジウム 「音響設計実務と数値解析モデリング」資料 AIJ1103-01000	富来礼次, 石塚崇, 安田洋介, 大鶴徹, 岡本則子, 奥園健	42-49頁
非拡散音場の室内音響特性に関する研究 その2 —吸音面が偏在した室の残響計算—	共著	2011年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	安田洋介, 佐藤正和, 土屋裕造, 佐久間哲哉	1291-1292頁
非拡散音場の室内音響特性に関する研究 その3 —平行壁間残響に及ぼす壁面拡散の影響—	共著	2011年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	土屋裕造, 安田洋介, 佐久間哲哉	1293-1294頁
音響振動連成解析を用いた遮音性能測定法の現象解明 —ニッシュ効果に関する検討—	共著	2011年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	安達光平, 佐久間哲哉, 安田洋介	1149-1150頁
2種類の高速多重極BEMを用いた頭部伝達関数算出の計算コスト低減	共著	2011年 5月	計算工学講演会論文集 Vol. 16, A-10-5	榎本貴之, 華原革夫, グナワ ン・アリーフ, 安田洋介, 大嶋拓也, 佐久間哲哉	
波動音響解析におけるモデリング(3)局所作用と拡張作用	共同	2011年 5月	第68回音シンポジウム「 音響設計実務と数値解析モデリング」(東京)		
面対称音場のための低周波数域FMBEM —効率化手法の提案—	共著	2011年 8月	日本建築学会学術講演梗概集(環境工学 I)	安田洋介, 大嶋拓也, 佐久間哲哉	305-306頁
面対称音場のための低周波数域FMBEM —数値実験による検討—	共著	2011年 8月	日本建築学会学術講演梗概集(環境工学 I)	樋口和孝, 安田洋介, 大嶋拓也, 佐久間哲哉	307-308頁

Helmholtz 場のための 高速多重極境界要素法 とその応用	共著	2011年 9月	日本音響学会講演論文集 (秋季)	安田洋介, 大嶋拓也, 佐久間哲 哉	1479-1482頁
FMBEMによる広域音響 伝搬解析に向けた基礎 的検討 —解析対象の 形状・分布と解析精度 ・効率の関係—	共著	2012年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	樋口和孝, 関根秀久, 安田洋介 , 大嶋拓也	1113-1114頁
境界要素解析における 反復解法の収束性向上 —可変の前処理の適 用—	共著	2012年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	門田 大, 関根秀久, 安田洋介	1187-1188頁
境界要素法—効率化の 手法	単独	2012年 5月	チュートリアル「音環境 の数値シミュレーション」 第1回 波動音響解析の 技法(東京)		
騒音伝搬シミュレーシ ョン	共著	2012年 7月	日本建築学会環境工学委 員会音環境運営委員会音 響数値解析小委員会 チ ュートリアル「音環境の 数値シミュレーション」 第2回 波動音響解析の環 境音響問題への適用 資 料 AIJ-1207-01000	大嶋拓也, 横田考俊, 大久保朝 直, 坂本慎一, 安田洋介, 石塚 崇, 河井康人, 豊田政弘, 朝倉 巧	26-51頁
伝達アドミッタンス機 能の高速多重極境界要 素法への実装	共著	2012年 9月	日本音響学会講演論文集 (秋季)	榎本貴之, 大嶋拓也, 安田洋介 , 佐久間哲哉	1185-1186頁
吸音面の偏在した非拡 散音場における局所作 用と拡張作用 —高速 多重極BEMによる検討 —	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演梗 概集 (環境工学 I)	門田 大, 関根秀久, 安田洋介	161-162頁

非拡散音場における吸音境界条件について —局所・拡張作用の違いが残響減衰に与える影響—	共著	2012年 9月	日本音響学会講演論文集 (秋季)	門田 大, 関根秀久, 安田洋介	1187-1188頁
吸音面の偏在した非拡散音場における局所・拡張作用の違い	共著	2012年10月	日本音響学会建築音響研究会資料 AA2012-30	門田大, 関根秀久, 安田洋介	
残響時間等減衰曲線に関するベンチマーク問題の設定に向けて	共著	2012年11月	日本建築学会環境工学委員会音環境運営委員会室内音響小委員会 第71回音シンポジウム「インパルス応答測定に基づく室内音響指標の算出に関する現状と課題 —音響指標ベンチマーク問題の作成に向けて—」資料 AIJ1211-00500	朝倉巧, 丸井淳史, 安田洋介	7-14頁
コンサートホールにおける舞台演奏台の音響効果		2012年12月	神大テクノフェスタ2012講演会(横浜)		
FMBEMによる広域音響伝搬解析 —高周波数域のためのFMBEMの適用性—	共著	2013年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	樋口和孝, 関根秀久, 安田洋介, 大嶋拓也	1145-1146頁
吸音面の偏在した非拡散音場における局所・拡張作用の違い —吸音材の厚さと流れ抵抗が及ぼす影響—	共著	2013年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	門田大, 関根秀久, 安田洋介	1199-1202頁
Helmholtz共鳴器を有する高性能乾式遮音二重床の開発 —2質点系モデルに基づく検討—	共著	2013年 4月	日本音響学会建築音響研究会資料 AA2013-17	安田洋介, 関根秀久, 雨海清一郎, 藪下満, 堀内秀樹	

Helmholtz共鳴器を有する高性能乾式遮音二重床の開発 —その1 2質点系モデルに基づく検討—	共著	2013年 8月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	安田洋介, 関根秀久, 雨海清一郎, 藪下満, 堀内秀樹	341-342頁
Helmholtz共鳴器を有する高性能遮音二重床の開発 —その2 2質点系モデルと実測との比較—	共著	2013年 8月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	藪下満, 安田洋介, 関根秀久, 雨海清一郎, 堀内秀樹	343-344頁
境界要素解析における反復解法の収束性向上 —可変的前処理における内部反復過程の検討—	共著	2013年 8月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	門田大, 関根秀久, 安田洋介, 石塚崇	205-206頁
建築音響関連梗概のデータベース構築 —その1 データベースの概要—	共著	2013年 8月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	峯村敦雄, 安田洋介	301-302頁
建築音響関連梗概のデータベース構築 —その2 検索システムの概要—	共著	2013年 8月	日本建築学会学術講演梗概集 (環境工学 I)	星和磨, 峯村敦雄, 安田洋介	303-304頁
FMBEMによる屋外広域音響伝搬解析の現状と課題	共著	2013年 9月	日本騒音制御工学会秋季研究発表会講演論文集	安田洋介, 関根秀久, 樋口和孝, 大嶋拓也	9-12頁
Helmholtz共鳴器を有する高性能乾式遮音二重床の開発 —2質点系理論と実大実験の比較—	共著	2013年10月	日本音響学会建築音響研究会資料 AA2013-43	安田洋介, 関根秀久, 雨海清一郎, 藪下満, 堀内秀樹	
吸音面の偏在した非拡散音場における局所・拡張作用の違い —実材料を想定した流れ抵抗・材厚での検討—	共著	2014年 3月	日本音響学会講演論文集 (春季)	門田大, 関根秀久, 安田洋介	1173-1174頁

剛壁に多孔質吸音材が密着した面における局所・拡張作用性の違い—Mikiの式に基づく一考察と波動数値解析による検討—	共著	2014年 5月	日本音響学会建築音響研究会資料 AA2014-20	安田洋介, 門田大, 上野智生, 関根秀久	
建築と音環境の関わり—望ましい音・望ましくない音・その予測—		2014年 7月	建築環境学最先端特別講義2014(福岡)		
Helmholtz共鳴器を有する高性能乾式遮音二重床の開発—その3 共鳴器構造1ユニットでの基礎実験—	共著	2014年 9月	日本建築学会学術講演梗概集(環境工学 I)	廣瀬俊平, 関根秀久, 安田洋介, 藪下満	207-208頁
Helmholtz共鳴器を有する高性能遮音二重床について	共著	2014年 9月	日本騒音制御工学会秋季研究発表会講演論文集	安田洋介, 関根秀久, 渡辺一弘, 藪下満, 堀内秀樹	125-128頁
メインストックにおける床性能向上技術・支社支援セミナー「Helmholtz共鳴器を有する高性能乾式遮音二重床の開発」		2014年 9月	(UR都市機構 技術研究所(八王子))		
剛壁に多孔質吸音材が密着した面における局所・拡張作用性の違い—無限大吸音面の特性と非拡散室内設置時の残響特性の関係—	共著	2014年 9月	日本音響学会講演論文集(春季)	上野智生, 門田大, 関根秀久, 安田洋介	1125-1128頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1999年～現在に至る	国内共同研究(東京大学、新潟大学)大規模音場解析のための高精度・高効率な波動音響解析手法の構築				
1999年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員				
2002年～現在に至る	個人研究 大規模建造物の3次元波動音響解析				
2004年 4月～現在に至る	日本音響学会(国内学会)会員				

2005年 4月～2011年 3月	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 音響数値解析小委員会 委員
2008年 8月～現在に至る	日本騒音制御工学会(国内学会)会員
2009年 4月～2013年 3月	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 企画広報WG 幹事
2009年 4月～2013年 3月	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 室内音響小委員会 音響指標測定研究WG 委員
2009年 4月～2011年 3月	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 企画刊行運営委員会 音環境の数値シミュレーション刊行小委員会 幹事
2009年 4月～2012年 3月	科学研究費補助金(東京大学、熊本大学、新潟大学)18,850,000円 「基盤研究(B)」拡散性制御に基づく先進的空間音響設計スキームの構築(研究分担者)
2010年 4月～現在に至る	個人研究 音響材料のモデル化・境界条件に関する研究
2010年 4月～現在に至る	日本音響学会(国内学会)建築音響研究委員会 委員
2011年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 音響数値解析小委員会 幹事
2011年 4月～2014年 3月	科学研究費補助金(新潟大学、東京大学、日本大学、首都大学東京、九州大学)1,989,000円 「基盤研究(B)」数値地形情報を用いた実在地域音響数値解析技術の研究開発(研究分担者)
2012年 4月～現在に至る	国内共同研究(YAB建築・音響設計)Helmholtz共鳴器を有する高遮音性能の床・天井構造の開発
2013年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 幹事
2013年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 企画広報WG 委員
2013年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)環境工学本委員会 音環境運営委員会 室内音響小委員会 インパルス応答予測・計測WG 委員
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金(東京大学、新潟大学)「基盤研究(B)」数値音響試験室における建築部材の音響性能予測法の確立(研究分担者)
2013年 6月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)技術報告集委員会 委員
2013年 6月～現在に至る	日本音響学会(国内学会)編集委員会 論文部会 委員
2013年 9月～現在に至る	日本音響学会(国内学会)事業委員会 委員
2014年 4月～現在に至る	国内共同研究(YAB建築・音響設計、UR都市機構、江尻建築構造設計事務所)ヘルムホルツ共鳴箱を用いた高性能遮音二重床の実用化研究
2014年 4月～現在に至る	日本音響学会(国内学会)騒音・振動研究委員会 委員
2014年 4月～現在に至る	日本音響学会(国内学会)道路交通騒音調査研究委員会 委員
2014年 6月～現在に至る	国内共同研究(清水建設、東京大学、新潟大学)高速多重極境界要素法による波動音響解析のGPGPU並列化

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特別助教	氏名 趙 旺熙	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
住宅用デシカント空調 システムの開発及び性能 評価に関する研究 (その1) バッチ式デシカント空調 システムの概要及びその加 湿暖房性能	共著	2010年 9月	日本建築学会環境系論文 集 (No. 655)	趙旺熙、加藤信介	

既存研究の発展形としての住宅用デシカント空調システムの提案及び数値解析モデルによる性能評価	共著	2010年10月	日本建築学会環境工学委員会熱環境運営委員会第40回熱シンポジウム「人・物・建物にとっての湿気」	趙旺熙、加藤信介	
湿気による建物腐朽を防ぐための対策としてデシカント調湿システムの開発	共著	2010年11月	東京大学生産技術研究所生産研究「建造物の総合的保存保全」(特集号、62巻一6号)	趙旺熙、加藤信介	
住宅用デシカント空調システムの開発及び性能評価に関する研究(その2) 調湿容量と蓄熱容量の違いによる性能変化及び蓄熱槽の役割に関する考察(査読付)	共著	2011年12月	日本建築学会環境系論文集(No. 670)	趙旺熙、加藤信介	
総合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究-ルーバーの日射遮蔽効果と年間空調負荷のケーススタディ-(査読付)	共著	2012年 6月	日本建築学会環境系論文集(No. 675)	佐藤智之、久保賢太郎、彦根、三澤温、趙旺熙、岩本静男、岩田衛	
その他					
住宅用デシカント空調システムの開発に関する研究(その6) 数値解析モデルによる夏季の除湿・冷房性能評価	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	二川智吏、趙旺熙、加藤信介、手塚純一	
住宅用デシカント空調システムの開発に関する研究(その5) 数値解析モデルによる冬季の加湿・暖房性能評価	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	趙旺熙、加藤信介、手塚純一、二川智吏	

住宅用デシカント空調システムの開発に関する研究（その7）蓄熱材槽の役割及び数値解析による中間期の夜間暖房性能評価	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集	趙旺熙、加藤信介、手塚純一、二川智吏	
非結露型次世代空調システムに関する研究（その17）デシカント外調機による夏季除湿性能評価試験	共著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	川本光一、金政一、李時桓、趙旺熙、加藤信介、大岡龍三、小金井真、河野仁志	
非結露型次世代空調システムに関する研究（その18）デシカント外調機による夏季除湿効率の検討	共著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集	川本光一、李時桓、趙旺熙、加藤 信介、大岡龍三、小金井真、河野仁志	
PROPOSAL OF RESIDENTIAL BATCH TYPE DESICCANT AIR-CONDITIONING SYSTEM	共著	2011年 7月	International Conference on Air-Conditioning & Refrigeration	Shinsuke. KATO, Wanghee. CHO	
STUDY ON INFLUENCE OF REGENERATION TEMPERATURE ON OPTOMAL ROTATION SPEED OF DESICCANT WHEEL	共著	2011年 7月	International Conference on Air-Conditioning & Refrigeration	Wanghee CHO, Shinsuke KATO	
住宅用デシカント空調システムの開発に関する研究（その8）数値解析による提案システムの特徴分析	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	趙旺熙、加藤信介、手塚純一、二川智吏	

自然エネルギー利用マルチソース・マルチユースヒートポンプシステムの開発 (その6) TRNSYSによる水循環ループの省エネルギー性能の検討	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	浅井香里、大岡龍三、趙旺熙、申東傑、日野俊之	
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その18) ロータ熱パージ用ヒートポンプを組み込んだデシカント外調機による夏期除湿性能評価試験	共著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	川本光一、朴炳龍、金政一、李時桓、趙旺熙、加藤信介、大岡龍三、小金井真、松永真治、河野仁志	
住宅用デシカント空調システムの開発に関する研究 (その9) 実用化を目的とした空調システムのコンパクト化に関する検討	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集	趙旺熙、加藤信介、手塚純一、二川智吏	
給湯設備における年間消費エネルギーの予測に関する研究 第2報 業務用厨房における給湯スケジュールの計測	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-1	岩本静男、趙旺熙	
統合ファサードにおける室内温熱環境に関する研究 その3 空調負荷と消費エネルギーの削減効果	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	牧野由佳、彦根茂、三澤温、趙旺熙、岩本静男、岩田衛	
自然通風時における人の快適性についての研究(その3) 自然通風が生理反応に及ぼす影響	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-1	太田尚久、吉村篤彦、中村剛基、趙旺熙、岩本静男	

自然通風時における人の快適性についての研究 その2 自然通風による快適な気温域	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-1	中村剛基、太田尚久、吉村篤彦、趙旺熙、岩本静男	
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その21) 潜熱顕熱分離外調機としての冬季加湿性能実験	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集	川本光一、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男、河野仁志、趙旺熙、金政一、朴炳龍、小林遼一	
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その22) 実機実験によるデシカントローターの熱パージの効果検証	共著	2012年 9月	空気調和・衛生工学会学術講演会講演論文集	趙旺熙、小林遼一、川本光一、河野仁志、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男	
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その19) デシカントローターの熱パージによる夏季の除湿性能	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	趙旺熙、小林遼一、川本光一、河野仁志、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男	
非結露型次世代空調システムに関する研究 (その20) 潜熱顕熱分離外調機としての加湿性能実験	共著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集、D-2	川本光一、加藤信介、大岡龍三、小金井真、岩本静男、河野仁志、趙旺熙、金政一、朴炳龍、小林遼一	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2003年 3月～現在に至る		韓国 エネルギー管理公団 政府委託課題			
2003年 3月～現在に至る		韓国 大韓設備工学会会員			
2003年 3月～現在に至る		韓国 建築学会会員			
2003年 4月～現在に至る		韓国 (株) 三星電子 産学共同研究			
2003年 5月～現在に至る		韓国 大韓建築学会(国際学会)会員			
2003年 7月～現在に至る		韓国 大韓設備工学会(国際学会)会員			
2003年 9月～現在に至る		韓国 (株) 三星電子 産学共同研究			
2004年 9月～現在に至る		韓国 (株) 三星電子 産学協同研究			
2005年 3月～現在に至る		韓国 (株) L G化学 産学協同研究			

2005年 4月～現在に至る	韓国 科学技術部基礎科学研究事業
2005年 6月～現在に至る	韓国 Engineering Reseach Center 政府委託課題
2005年 7月～現在に至る	韓国 室内環境学会会員
2006年 4月～現在に至る	デシカント研究会
2006年 4月～2011年 3月	国内共同研究 ((株)朝日工業社)2,000,000円 非結露型次世代デシカント空調システムの開発
2006年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会会員
2007年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員
2007年 4月～現在に至る	日本建築学会会員
2007年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)会員
2007年10月～2010年 9月	競争的資金等の外部資金による研究 (財団法人トステム建材産業振興財団)2,000,000円 床下空間を活用した住宅用調湿システムの開発に関する研究
2007年10月～現在に至る	財団法人トステム建材産業振興財団第16回(平成19年度)研究助成
2009年 6月～現在に至る	平成21年度住宅・建築関連先端技術開発助成事業
2009年 6月～2010年 5月	競争的資金等の外部資金による研究 (国土交通省平成21年度住宅・建築関連先端技術開発助成事業)6,800,000円 パッシブ手法を応用したトータル空調(暖冷房調湿換気)対応の省エネ型住宅用デシカントシステムの技術開発
2010年 4月～現在に至る	TRNSYSゼミ
2010年 4月～2011年 3月	断熱性能改修前後の性能比較計算(J社)
2010年 4月～現在に至る	新築オフィスビルの空調機算定(韓国B社)
2010年 6月～現在に至る	平成22年度住宅・建築関連先端技術開発助成事業
2010年 7月～現在に至る	平成22年度地球温暖化対策技術開発等事業(領域2・委託)
2010年 7月～2011年 3月	競争的資金等の外部資金による研究 (環境省平成22年度地球温暖化対策技術開発等事業)20,800,000円 ダイナミックインシュレーション技術を活用する住宅の断熱改修に関する技術開発
2010年10月～現在に至る	研究交流会
2010年10月～現在に至る	簡易負荷計算ツールの開発(J社)
2010年11月～現在に至る	耐震フレーム説明会の企画
2011年 4月～2012年 3月	企業からの受託研究 (トステム(株)総合研究所)1,000,000円 自然通風時における人間の温熱快適性に関する研究
2011年 4月～2012年 3月	企業からの受託研究 (旭化成ホームズ(株)住宅総合技術研究所)700,000円 住宅内吹抜けが室内温熱環境に与える影響の検討
2011年 4月～2012年 3月	国内共同研究 (国立大学法人東京大学)400,000円 省エネ型ドレンレス空調システムの開発
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 2,800,000円 「基盤研究(C)」多様な使用実態に対応可能な住戸セントラル給湯システム効率評価手法の確立(研究分担者)
2012年 4月～2013年 3月	企業からの受託研究 (株)LIXIL)500,000円 自然通風時における人間の温熱快適性に関する研究
2012年 7月～現在に至る	第5回地球環境連携会議・ZEB調査特別委員会 企画、通訳
2012年11月～2013年10月	企業からの受託研究 (東京ガス)2,000,000円 数値シミュレーションを用いた人体モデルによる暖房方式の評価

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 教授	氏名 奥山 博康	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
dotCampusを活用した授業の実践		2012年 4月 1日 ～現在に至る	授業に関連する資料の配布, 各種の連絡に利用している.
熱・換気回路網モデル・シミュレーション・プログラム NETSを利用した研究の指導		2012年 4月 1日 ～現在に至る	本人が開発してきた汎用の建築伝熱換気シミュレーションプログラム NETSを用いれば, 自然エネルギーを利用し, 環境共生的な様々な建築と 建築設備, これらのシステムの各種の省エネ手法の予測計算などができる. これを利用して様々な研究課題の指導をしている.
2 作成した教科書、教材			
冷暖房熱負荷の表計算プログラム		2014年 4月 1日 ～現在に至る	環境システム計画 1, 2 及び演習では冷暖房設備を設計し製図するが, まず最初に熱負荷計算をしなければならない. そしてダクトや配管の搬 送系と熱源の設計を行う. 煩雑な熱負荷計算作業よりも, 計画と設計と 製図に力を入れられるように, 表計算プログラムにより効率的に行える 様にした.
単室モデルの熱・換気性能システム同定の表計算プログラ ム		2014年 4月 1日 ～現在に至る	本人が指導する研究は, シミュレーション・プログラムNETSを道具とし て取り組む課題の他に, システム同定理論による現場測定法の研究もある . 後者には一般的な多数室モデルに関する同定プログラムSPIDがある が, まだ不十分な信頼性と不確かさ評価の研究課題に取り組むためには , 単純な単室モデルから実験的に研究する必要がある. このために表計 算プログラムを開発している.
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
なし			
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
なし			
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Reconsideration of parameter estimation and reliability evaluation methods for building airtightness measurement using fan pressurization (査読付)	共著	2012年 1月	Building and Environment, Elsevier 47	©Hiroyasu Okuyama, Yoshinori Ohnishi	373-384頁
Uncertainty analysis and optimum concentration decay term for air exchange rate measurements: Estimation methods for effective volume and infiltration rate (査読付)	共著	2012年 3月	Building and Environment, Elsevier 49	©Hiroyasu Okuyama, Yoshinori Ohnishi	182-192頁
System parameter identification theory and uncertainty analysis methods for multi-zone building heat transfer and infiltration (査読付)	共著	2012年 8月	Building and Environment, Elsevier 54	©Hiroyasu Okuyama, Yoshinori Ohnishi	39-52頁

熱・換気回路網モデルによる建築環境工学分野での研究開発（査読付）	単著	2013年11月	神奈川大学・工学研究所・所報(36)		5-15頁
その他					
（口頭発表）不偏推定を考慮した拡散システム同定理論と事例検討	単著	2010年 9月	空気調和・衛生工学会大会（山口県）学術講演論文集 I-71		2519-2522頁
（口頭発表）不偏推定を考慮した拡散系システム同定理論	単著	2010年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸）環境工学2		641-642頁
（口頭発表）送風機による建物気密性測定のパラメータ推定法と信頼性評価方法	単著	2011年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）環境工学2		843-844頁
（口頭発表）送風機による建物気密性測定のパラメータ推定法と不確かさ評価方法の再考	共著	2011年 9月	空気調和・衛生工学会大会（名古屋）学術講演論文集 C-3	◎奥山博康, 大西由哲	177-180頁
（口頭発表）多数室建物の伝熱換気のシステム同定理論と不確かさ分析法	単著	2012年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集 環境工学2		15-16頁
（口頭発表）多数室建物の伝熱換気のシステム同定理論と不確かさ分析法及び事例検討	単著	2012年 9月	空気調和衛生工学会大会・学術講演会講演論文集 J-65		3037-3040頁
（口頭発表）最小二乗法を用いた換気量同定手法と不確かさ分析法	単著	2012年12月	シンポジウム論文集（東京）「トレーサガスを用いた多数室間換気量測定法の現状と課題」（空気調和衛生工学会・換気設備委員会主催）		

(口頭発表) 単室建物の熱性能の現場測定法に関する研究	単著	2013年 6月	2013年度第1回伝熱と熱環境シミュレーション合同小委員会合同WG発表(日本建築学会・伝熱小委員会)		
(口頭発表) 単室建物モデルの熱性能現場測定法	単著	2013年 8月	日本建築学会大会学術講演梗概集 環境工学2		23-24頁
(口頭発表) 熱回路網モデルによる床暖房と温風暖房のエネルギー性能比較	単著	2013年 9月	空気調和衛生工学会大会学術講演論文集 J-72	◎奥山博康, 櫻井一樹	473-476頁
(口頭発表) 通気二重窓の冷房負荷低減効果	共著	2014年 9月	空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集(秋田大学) G-45		269-272頁
(口頭発表) 集合住宅の第三種換気方式に関する問題	共著	2014年 9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(神戸大学) 環境工学2	◎奥山博康, 小林和起	765-766頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1975年 4月～現在に至る	日本建築学会 会員				
1975年 4月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員				
1981年 4月～現在に至る	空気調和・衛生工学会(国内学会)会員				
1981年 9月～現在に至る	空気調和衛生工学会 会員				
1987年 1月～現在に至る	ASHRAE(米国冷暖房換気学会) 会員				
1987年 1月～現在に至る	米国空気調和・冷凍・暖房工学会(国際学会)会員				
1987年 9月～現在に至る	ISES(国際太陽エネルギー学会) 会員				
1987年 9月～現在に至る	国際太陽エネルギー学会(国際学会)会員				
1988年 4月～現在に至る	建築熱性能評価ワーキング				
2000年 4月～2011年 2月	日産自動車の受託研究「車両熱負荷の計算モデル構築と検証」を実施				
2003年11月～現在に至る	ISO/TC163委員会				
2005年 4月～現在に至る	空気調和衛生工学会・換気測定・評価小委員会				
2013年 4月～2015年 3月	日本建築学会 伝熱小委員会 委員				
2013年 4月～2015年 3月	日本建築学会 気密性能WG FF24 委員				

2014年 4月～2015年 3月

空気調和衛生工学会 換気設備委員会 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特別助手	氏名 鄭 一止	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
The Participation of General Citizen to the Creative City in Asahimachi (ただし、 冊子の題目は「The Participation of General Citizen to the Creative City in Obuse」)	単著	2010年 7月	14th International Planning History Society Conference, Istanbul, Tu rkey		

Taiwan-Korea-Japan Comparative Study on Community Development Center:Through the Case Studies on Taipei Taiwan, Ansan Korea, and Nerima Japan	共著	2010年 8月	国際都市計画シンポジウム2010 (奈良 ; 28-30th Aug. 2010)	Hideki Koizumi, Jun Goto, Kanako Tsutsumi, Chikako Suzuki, <u>Cheong Ilji</u>	
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2002年 3月～現在に至る		韓国都市設計学会 会員			
2003年 3月～現在に至る		大韓国土・都市計画学会 会員			
2006年 4月～現在に至る		日台韓におけるまちづくり比較研究会ASCOM (代表: 饗庭伸教授) メンバー			
2006年 5月～現在に至る		日本建築学会 会員			
2008年 4月～現在に至る		日本都市計画学会 会員			
2009年 4月～現在に至る		まちづくりの仕組みづくり研究会 (代表: 小泉秀樹准教授) メンバー			
2010年 3月～現在に至る		現代都市政策研究会の例会のゲスト講師 (韓国における市民運動とマウルマンドゥルギについて発表)			
2010年 7月～現在に至る		慶應義塾大学SFCの中島直人先生のまちづくり授業でのゲスト講師 (韓国におけるマウルマンドゥルギと日本との比較について発表)			
2011年 3月～現在に至る		NPO安房文化遺産フォーラム「知恵袋市民講座」での講師 (「たてやま地域まるごと博物館」について発表)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特別助手	氏名 小谷野 一尚	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
座屈拘束ブレースを制振部材として用いた損傷制御RC構造(査読付)	共著	2013年 6月	日本建築学会構造系論文集(日本建築学会)(688)	大竹誠寛、大家貴徳、毎田悠承、小谷野一尚、坂田弘安、岩田衛	1123-1129頁
累積塑性歪エネルギー率の大きな座屈拘束ブレースの研究(査読付)	共著	2014年 7月	日本建築学会構造系論文集(日本建築学会)(701)	飯塚亮太、小谷野一尚、緑川光正、岩田 衛	1015-1023頁

疲労性能の高い座屈拘束ブレースの研究(査読付)	共著	2015年 2月	日本建築学会技術報告集(日本建築学会) 21(47)	◎小谷野一尚、宮川和明、小出秀一、喜多村亘、岩田 衛	137-140頁
その他					
座屈拘束ブレースを制振部材として用いる損傷制御RC構造の実験的研究(その1)	共同	2013年 9月	2013年度日本建築学会大会(北海道)	◎小谷野一尚、大家貴徳、大竹誠寛、毎田悠承、坂田弘安、岩田 衛	
座屈拘束ブレースを制振部材として用いる損傷制御RC構造の実験的研究(その2)	共同	2013年 9月	2013年度日本建築学会大会(北海道)	大家貴徳、小谷野一尚、大竹誠寛、毎田悠承、坂田弘安、岩田 衛	
累積塑性歪エネルギー率の大きな座屈拘束ブレースの研究	共同	2013年 9月	2013年度日本建築学会大会(北海道)	飯塚亮太、小谷野一尚、岩田衛	
累積塑性歪エネルギー率の大きな座屈拘束ブレースの研究 -その1 既往の研究の分析-	共同	2014年 9月	2014年度日本建築学会大会(近畿)	◎小谷野一尚、飯塚亮太、緑川光正、岩田 衛	
累積塑性歪エネルギー率の大きな座屈拘束ブレースの研究 -その2 性能確認実験および設計要件-	共同	2014年 9月	2014年度日本建築学会大会(近畿)	飯塚亮太、小谷野一尚、緑川光正、岩田 衛	
鉄骨枠付き座屈拘束ブレースを用いたアンカーレス構法の解析モデルに関する研究	共同	2014年 9月	2014年度日本建築学会大会(近畿)	小出秀一、小谷野一尚、大家貴徳、毎田悠承、坂田弘安、岩田 衛	
鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの繰返し載荷実験	共同	2014年 9月	2014年度日本建築学会大会(近畿)	喜多村亘、小谷野一尚、宮川和明、岩田 衛	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2005年 4月～現在に至る		日本建築学会(国内学会)会員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科		職名 特別助手	氏名 犬伏 徹志		大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
超高層免震建物に生じる引抜き力の低減に関する研究：その1 解析モデルの概要ならびに引抜き力の検証	共著	2010年 7月	日本建築学会学術講演梗概集	大木洋司、山下忠道、川端淳、二宮正行、斎藤光広	

超高層免震建物に生じる引抜き力の低減に関する研究：その2 免震装置に生じる引張面圧の低減	共著	2010年 7月	日本建築学会学術講演梗概集	大木洋司、山下忠道、川端淳、二宮正行、斎藤光広	
軸力伝達機構を有する粘弾性ダンパーシステムの開発：その1 粘弾性ダンパーシステムの概要	共著	2010年 7月	日本建築学会学術講演梗概集	田中和宏、服部学、川端淳、二宮正行、山下忠道	
軸力伝達機構を有する粘弾性ダンパーシステムの開発：その2 アウトフレーム制震補強工法への適用	共著	2010年 7月	日本建築学会学術講演梗概集	川端淳、二宮正行、田中和宏、服部学、山下忠道	
地震観測記録に基づく有効入力動の評価（その1 神奈川大学における耐震・免震構造の比較）	共著	2011年 8月	日本建築学会学術講演梗概集	伊藤真二、山下忠道、二宮正行、荏本孝久、宮本裕司	
地震観測記録に基づく有効入力動の評価（その2 構造計画研究所における制振構造の場合）	共著	2011年 8月	日本建築学会学術講演梗概集	伊藤真二、山下忠道、マテオ・アライ アラベル、富澤徹弥、宮本裕司	
軸力伝達機構を有する粘弾性ダンパーシステムを用いた工法開発に関する研究（その1. 粘弾性ダンパーシステムに対する二軸載荷試験の結果）	共著	2011年10月	日本建築学会技術報告集	田中和宏、山下忠道、服部学、川端淳、二宮正行	
制振補強効果による動的性能向上倍率の算出（その4 エネルギー定則に基づく換算1s値との比較）	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演梗概集	北嶋圭二、清水英、島有希子、山下忠道、笠井和彦、坂田弘安、都祭弘幸、久保田雅春、高橋孝二	

制振補強効果による動的性能向上倍率の算出 (その9 粘弾性ダンパーを用いた補強算出例と免震レトロフィット算出例)	共著	2012年 9月	日本建築学会学術講演梗概集	高橋孝二、山下忠道、山崎康雄、伊藤真二、笠井和彦、坂田弘安、北嶋圭二、都祭弘幸、蒲武川	
超高層免震建物に生じる引抜き力低減に関する研究ー引抜き力制御機構の提案ー(査読付)	共著	2013年 3月	構造工学論文集 B 59B	犬伏徹志, 山下忠道, 大木洋司, 梁川幸盛, 白山敦子	291-298頁
その他					
特許(特願2010-004247)	共著	2010年			
特許(特願2010-164273)	共著	2010年			
III 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
2005年 3月～現在に至る	日本建築学会 会員				
2005年 3月～現在に至る	日本建築学会(国内学会)会員				
2009年 7月～2012年 3月	日本建築学会鋼構造制振小委員会解析WG 委員				
2010年 8月～現在に至る	動的 I s 値検討委員会 ※東京工業大学、日本大学、ダイナミックコントロールデザイン、構造計画研究所、大和ハウス工業、飛鳥建設、五洋建設、西松建設参加				
2011年11月～2013年 3月	日本建築構造技術者協会関西支部大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会W2 委員				
2012年 4月～現在に至る	日本建築学会鋼構造制振小委員会 編集WG委員				
2013年 4月～現在に至る	個人研究 免震建物の擁壁衝突時における擁壁部特性の評価に関する研究				
2013年 4月～現在に至る	個人研究 相互作用効果を考慮しない建築物の減衰特性に関する研究				
2013年 7月～現在に至る	日本建築学会免震構造小委員会 委員				
2014年 3月～現在に至る	日本地震工学会(国内学会)会員				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部建築学科	職名 特別助教	氏名 吉岡 寛之	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		なし			